

愛知医科大学 学報



ドクターヘリ（平成30年5月から運用がスタートした格納庫とともに）

＝ 第151号 ＝

2018. 7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

2019年度学生募集概要……………	2
オープンキャンパス2018開催……………	5
平成29年度愛知医科大学決算……………	6
医学教育分野別評価模擬審査実施……………	15
平成30年度看護学部キャンドルセレモニー挙行…	19
南イリノイ大学医学部短期留学体験記……………	20
タイ王国マハサラカム大学短期留学生来学…	23
Smile ～スマイル～ ……………	43
教育・研究最前線……………	44

2019年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	
推薦入学（公募制）	約20名※1	11/1～11/9 [消印有効]	11/17	本 学	11/26	
愛知県地域特別枠入学A方式	約5名※2					
国際バカロレア入学	若干名					
一般入学	約65名	12/10～1/10 [消印有効]	第1次試験 1/22	名古屋, 東京 大阪, 福岡	1/28	
			第2次試験 1/31・2/1 (いずれか希望する日)	本 学	2/7	
大学入試センター試験 利用入学	前期	約15名	12/10～1/18 [消印有効]	第1次試験 1/19・20 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	2/7
				第2次試験 2/14	本 学	2/21
	後期	約5名	12/10～2/25 [消印有効]	第1次試験 1/19・20 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	3/4
				第2次試験 3/8	本 学	3/14
愛知県地域特別枠入学B方式	約5名※2	2/15～2/25 [消印有効]	第1次試験 1/19・20 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	3/4	
			第2次試験 3/8	本 学	3/14	

※1 国際バカロレア入学若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠入学はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

◆入試科目・配点・時間					
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目	配 点	時 間	
推薦入学（公募制） 愛知県地域特別枠入学A方式	小論文		5段階評価	60分	
	基礎学力試験 (数学)	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』	100点	60分	
	基礎学力試験 (外国語)	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	100点	60分	
	面接（個人面接）		5段階評価	—	
国際バカロレア入学	書類選考・適性検査・面接（個人面接）				
一般入学	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』, 『化学基礎・化学』, 『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 (各100点)	100分
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』	150点	80分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	150点	80分
	第2次試験	小論文		5段階評価	60分
		面接（個人面接）		5段階評価	—
大学入試 センター試験 利用入学 (前期)	第1次試験 (大学入試 センター試験)	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）	100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』	200点 (各100点)	
		理 科	『物理』, 『化学』, 『生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 (各100点)	
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』※250点を200点に換算	200点	
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—
大学入試 センター試験 利用入学 (後期)	第1次試験 (大学入試 センター試験)	国 語	『国語』（近代以降の文章、古典〔古文・漢文〕）	200点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』・『数学Ⅱ・数学B』	200点 (各100点)	
		理 科	『物理』『化学』『生物』の3科目のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点	
		地歴公民	『全科目』のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点	
		外国語	『英語(筆記・リスニング)』※250点を200点に換算	200点	
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—
愛知県地域特別枠入学B方式	試験内容は大学入試センター試験利用入学（前期）と同様				

2019年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学	指定校制	約15名	10/29～11/12 [消印有効]	11/23	本 学	12/4
	公募制	約15名				
社会人等特別選抜		5名				
一般入学		50名	12/24～1/15 [消印有効]	1/27		2/6
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	10名	12/24～1/18 [消印有効]	1/19・20 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験受験会場	2/6
	B方式	5名				

◆入試科目・配点・時間					
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目	配 点	時 間
推薦入学	指定校制	面接		—	—
	公募制	国語	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』	100点	45分
		数学	『数学Ⅰ・数学A』※1	100点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』	100点	45分
		面接		—	—
社会人等特別選抜		小論文		—	60分
		面接		—	—
一般入学		国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』 『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A』から1科目を選択※1※2	100点	60分
		理 科	『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』から1科目を選択	70点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』	100点	60分
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	国語・数学	『国語（近代以降の文章）』, 『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択	100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択	100点	
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』※3	100点	
	B方式	国 語	『国語（近代以降の文章）』	100点	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』 から1科目を選択	100点	
		地理歴史・ 公民	『世界史B』, 『日本史B』, 『地理B』, 『現代社会』, 『倫理』, 『政治・経済』, 『倫理, 政治・経済』 から1科目を選択	100点	
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択	100点	
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』※3	100点	

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

※3 外国語の配点は250点を100点に換算する。

2019年度大学院医学研究科(博士課程)学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：平成30年8月13日（月）から
平成30年8月27日（月）まで（必着）
試験日：平成30年10月5日（金）
試験場：大学本館
合格発表：平成30年10月23日（火）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：平成30年12月10日（月）から
平成30年12月25日（火）まで（必着）
試験日：平成31年2月8日（金）
試験場：大学本館
合格発表：平成31年2月26日（火）

3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。	10：00 ～ 12：00
面接試験 (志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。)	13：00～

2019年度大学院看護学研究科(修士課程)学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース
成人・老年看護学分野	慢性看護学	修士論文
精神・在宅・地域看護学分野	精神看護学	
	地域看護学	
高度実践看護学分野	感染看護学	高度実践看護師 (専門看護師 [CNS])
	臨床実践看護学	高度実践看護師 (診療看護師)

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：平成31年1月7日（月）から
平成31年1月21日（月）まで（消印有効）
試験日：平成31年2月7日（木）
試験場：看護学部棟内講義室
合格発表：平成31年2月13日（水）

4 試験科目・時間

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(※)
13：15～	面接

※ 専門科目の出題について

- 1 修士論文コース：志願する専攻領域
- 2 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース：CNS関連分野
- 3 高度実践看護師（診療看護師）コース：関連領域の病態生理学

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：平成30年8月10日（金）から
平成30年8月24日（金）まで（消印有効）
試験日：平成30年9月5日（水）
試験場：看護学部棟内講義室
合格発表：平成30年9月12日（水）

オープンキャンパス2018開催

平成30年7月28日（土）と8月11日（土・祝）の2日間にわたり、平成30年度のオープンキャンパスが開催されました。

今年は、台風の影響で初日の開催時間を一部繰り上げるなどの対応をしましたが、参加人数は2日間合わせて、医学部は467組838名、看護学部は758組1,209名の合計2,047名に上り、昨年より約300名増えるなど過去最高の来場者を数えました。

オープンキャンパスでは、たちばなホールでの「大学概要説明、入試説明」に始まり、レストランオレンジでの「学食体験」に加え、医学部では「キャンパスツアー」、
「学生トークライブ（入学試験合格体験談・留学体験談・研究・学会発表体験談）」等を行い、看護学部では「在学生からのメッセージ」、「実習体験」等が行われました。

在学生の案内による「キャンパスツアー」においては、ドクターヘリを見学しながらのフライトドクター及びフライトナースによる説明が大変好評で、会場が賑わいました。

また、シミュレーションセンターにおける実習体験と国際交流センターの活動紹介（パネル展示）では、オープンキャンパスに来なければ知ることができない様々な体験ができました。

そして、教職員による「入学試験個別相談コーナー」では、入学試験の内容などに関する相談が多く寄せられ、「在学生と話そう（学生との相談コーナー）」では、在学生から入学試験に臨む心構えや入学後の状況等を聞く良い機会として参加された方も数多く見られました。



ドクターヘリ見学



脳の標本観察
(加齢医学研究所)



人体シミュレータを使った実習体験



学生トークライブ



在学生による
なんでも相談コーナー

OPEN CAMPUS



未来カンファレンス

豊知医科大学
RIKUI MEDICAL UNIVERSITY

未来カンファレンス

オープンキャンパスは未来について考える場です。一方的な情報提供ではなく、見て、聞いて、語って、大学生活を体感しながら、未来について語り合ってもらいたいと考え、その思いを「未来カンファレンス」と表現しました。

シンボルマークは、医療人のタマゴの殻が割れて生まれ、成長していくことを表しており、タマゴに入るヒビは心電図の波形であり、未来への胸の高鳴りを意味しています。

平成29年度愛知医科大学決算

平成30年5月28日（月）に開催された理事会及び評議員会において、平成29年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

平成29年度は新病院開院4年目となり、着実に実績を挙げてきていますが、当初想定していなかった課題も顕在化して来ており、これを解決しなくては活路を開くことはできません。そこで3年間を振り返り、詳細な評価を踏まえて、具体的な改善策の策定と効率的で高収益体質の構築につながる事業を最優先し、複数年にわたり未執行の事業は白紙とし、既存の財政支出は、ゼロベースで事業項目の見直しと効率化を図ることとしました。こうしたレビューをする中にも眼は将来に向け、世界で活躍する医療人の育成を図るとともに、研究推進のための競争的資金の獲得支援、研究活性化に繋がる方策については積極的に展開していくこととしました。

予算編成は、資金収支予算ベースでは経済変動の影響を柔軟に受け止めるとともに、いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の具体的な目標金額を50億円とし、事業活動収支予算ベースでは、特殊要素（新規減価償却費分他）を除き、黒字予算の幅を拡げ5億円以上の確保を図ることとしました。

注目の医療収入は、過去最高となる約342億円の決算（前年度比105.8%）を計上することができました。本院の入院診療単価は+3,365円、4.9%のアップとなり、1日平均外来患者数は、+52.6人、2.0%アップとなりました。県内唯一の高度救命救急センター、ドクターヘリに関する指標も、救急車搬送件数+747件、13.0%アップ、ドクターヘリ出動要請件数+52件、14.2%アップ、本院搬送割合は13.3%アップ、また、手術件数も+808件、7.0%アップと各指標は、順調に推移いたしました。

一方、支出の中で大きなウエイトを占める人件費については、教員や病院スタッフの人的資源の確保を図りつつ、人件費率を43.19%（前年43.67%、0.48%改善）に抑えることができました。

平成29年度の補正予算では、外来診察室の増設、無線LAN（Free Wi-Fi）サービスの開始、入試会場の変更等状況の変化や要望に遅滞なく対応し、大学全体のアクティビティの向上を図りました。

こうしたことから収支差は、補正後予算から大幅に改善し、事業収支差は、約▲16億18百万円となりました。資産売却差額・資産処分差額及び新病院建設等に係る特殊要素（寄付金、減価償却）を考慮した実質の収支差は、約4億81百万円となり、昨年度に引き続き、黒字決算となりました。

事業活動収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

（単位：百万円）

		科目	金額	前年差	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,101	△216	
		手数料	207	△5	
		寄付金	446	63	
		経常費等補助金	1,562	△77	
		付随事業収入	532	△114	
		医療収入	34,195	1,886	
		雑収入	709	111	
		教育活動収入計	42,752	1,648	
	事業活動支出の部	人件費	18,558	538	
		教育研究経費	24,665	235	
		管理経費	974	254	
		徴収不能額等	8	2	
		教育活動支出計	44,205	1,028	
		教育活動収支差額	△1,453	619	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	6	△5	
	事業活動	教育活動外収入計	6	△5	
	支出の部	借入金等利息	321	14	
		事業活動	教育活動外支出計	321	14
	教育活動外収支差額	△315	△19		
	経常収支差額	△1,768	601		
特別収支	収入の部	事業活動	資産売却差額	9	9
			その他の特別収入	204	52
			特別収入計	213	61
	支出の部	事業活動	資産処分差額	25	△8
			その他の特別支出	39	33
			特別支出計	63	24
	特別収支差額	150	37		
	基本金組入前当年度収支差額	△1,618	638		
	基本金組入額合計	△3,512	1,740		
	当年度収支差額	△5,130	2,378		
	前年度繰越収支差額	△47,509	△7,474		
	基本金取崩額	1,464	1,431		
	翌年度繰越収支差額	△51,174	△3,665		

（参考）

事業活動収入計	42,971	1,703
事業活動支出計	44,589	1,066

（注）科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

資金収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	5,101	△216	人件費支出	18,546	477
手数料収入	207	△5	教育研究経費支出	20,282	△47
寄付金収入	539	80	（うち医療経費支出）	(18,200)	(33)
補助金収入	1,638	△41	管理経費支出	816	268
（国庫補助金収入）	(1,275)	(△59)	借入金等利息支出	321	13
（地方公共団体補助金収入）	(363)	(19)	借入金等返済支出	1,732	△3,753
資産売却収入	9	9	施設関係支出	750	△765
付随事業・収益事業収入	532	△114	設備関係支出	1,864	808
医療収入	34,195	1,886	資産運用支出	110	0
受取利息・配当金収入	6	△5	その他の支出	4,227	358
雑収入	712	113			
借入金等収入	110	△3,000			
前受金収入	946	62			
その他の収入	7,506	△2,148			
資金収入調整勘定	△7,330	△138	資金支出調整勘定	△4,339	△774
前年度繰越支払資金	3,854	△35	翌年度繰越支払資金	3,717	△137
収入の部合計	48,025	△3,553	支出の部合計	48,025	△3,553

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位:百万円)

資産の部			負債の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
固定資産	54,188	△2,771	固定負債	28,652	△1,191
有形固定資産	46,458	△1,652	長期借入金	19,003	△1,432
土地	8,773	△0	学校債	1,250	△160
建物	29,798	△1,091	長期未払金	2,133	389
構築物	1,800	369	退職給与引当金	6,266	12
教育研究用機器備品	4,950	△340	流動負債	6,829	271
管理用機器備品	215	33	短期借入金	1,432	0
図書	916	△8	1年以内償還予定学校債	270	△30
車両	5	△1	未払金	3,821	221
建設仮勘定		△614	前受金	946	51
特定資産	6,968	△997	預り金	360	30
学校債償還引当特定資産	1,520	△190			
借入金返済引当特定資産	3,400	△700	負債の部合計	35,481	△920
医療機器等整備調整資金引当特定資産	1,850	0	純資産の部		
教育研究奨励引当特定資産	100	△100	科目	金額	前年差
国際交流推進引当特定資産	54	△6	基本金	80,576	2,048
教育研究活性化引当特定資産	44	△1	第1号基本金	77,386	1,910
その他の固定資産	762	△122	第4号基本金	3,190	138
借地権	20	0	繰越収支差額	△51,174	△3,665
電話加入権	5	0	翌年度繰越収支差額	△51,174	△3,665
施設利用券	175	△15	純資産の部合計	29,402	△1,618
ソフトウェア	191	△177	負債及び純資産の部合計	64,883	△2,537
有価証券	11	0			
長期貸付金	360	70			
保証金	0	△0			
預託金	0	△0			
流動資産	10,695	234			
現金預金	3,717	△137			
未収入金	6,373	350			
貯蔵品	336	△20			
短期貸付金	109	22			
立替金	3	0			
前払金	157	19			
資産の部合計	64,883	△2,537			

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

■前年度との比較（主な増減）

(1) 事業活動収支計算書

収入…事業活動収入は430億円で、前年対比17億3百万円の増収となりました。医療収入が予算積算時の患者数、単価ともに上回り、増収となっています。

支出…事業活動支出は446億円で、前年対比10億66百万円の増加となりました。主な内訳としては、人件費が5億38百万円の増加、教育研究経費が2億35百万円の増加、管理経費が2億54百万円の増加です。

(2) 資金収支計算書

資金収入の部合計は、480億円で前年対比36億円の減少となっていますが、前年度は30億円の借り換えを計上しており、調整勘定を除く実質的な収入は約15億円の増収、同様に実質的な資金支出の部合計は、ほぼ前年度並みの計上となりました。

(3) 貸借対照表

資産総額は前年比25億円（3.8%）減少の649億円となりました。また、純資産額は前年比16億円（5.2%）減少の294億円となりました。

■最後に

「働き方改革」の実現に向けては、大学側の対応はもとより職員の意識に左右される要素も大きいと、職員が豊かで充実した生活が送れるようにワークライフバランスを考慮して取り組んでいく必要があります。長時間労働の是正をという視点から、業務効率の改善・向上を通して、早期終業を促進しそれに伴って見出した時間を家族との余暇、趣味等に費やし生活の質向上に繋げていきたいと考えています。また、業務効率の改善に真剣に取り組むことを通して、各自の業務棚卸しの実施、業務負荷の平準化、日常業務の見直し（整理）等に繋がり、何にもまして職員の意識改革が推進されることで職場改善にも繋がります。これらの取り組みが定着することで真の「働き方改革」が進み長時間労働の抑制にもつながるものと考えます。

こうした活動により生活時間の充実が図られ『職員が健康で働きやすい効率のよい職場』の構築が進むものと期待されますので積極的に取り組んでいきます。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。
<http://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0105/index.html>

役員・評議員の異動

【理事】

辞 任 岡田尚志郎（平成30年3月31日付）

久徳 重和（平成30年5月31日付）

退 任 白鳥さつき（平成30年3月31日付）

就 任 坂本真理子（任期：平成30年4月1日～平成31年1月27日）

加藤 政隆（任期：平成30年6月1日～平成31年1月27日）

再 任 佐藤 啓二（任期：平成30年4月1日～平成32年3月31日）

【評議員】

辞 任 岡田尚志郎（平成30年3月31日付）

堺 宣博、久徳重和、黒江幸四郎、森田 亘（平成30年5月31日付）

杉田洋一（平成30年6月30日付）

退 任 石口恒男、小池三奈美、白鳥さつき、八島妙子（平成30年3月31日付）

就 任 井上里恵、坂本真理子、冨喜田恵子、道勇 学、藤原祥裕

（任期：平成30年4月1日～平成31年1月27日）

藤澤恵児、黒野俊介、鳥井彰人、宮良 肇（任期：平成30年6月1日～平成31年1月27日）

服部達哉（任期：平成30年7月1日～平成31年1月27日）

瀧本 勲名誉教授御逝去



平成30年6月26日（火）に瀧本勲名誉教授（耳鼻咽喉科学講座）がご逝去されました。享年89歳でした。

瀧本先生は、昭和27年3月に名古屋大学医学部を卒業され、昭和52年4月に愛知医科大学医学部耳鼻咽喉科学講座の教授として着任されました。教務部・学生部次長、副院長を歴任後、平成4年からの2年間は病院長を務められ、各診療科から絶大な信頼を得ておられました。また、昭和61年から平成6年の長きにわたって、学校法人愛知医科大学の評議員・理事にな

られて、本学の発展に寄与され、平成6年3月末まで勤務されました。

瀧本先生は、臨床に結びついた研究を重視されて国内外に注目される実績を上げられ、愛知医科大学のみならず耳鼻咽喉科全体の発展にも寄与されました。それらの功績により、平成20年には瑞宝小綬賞を受賞されています。

本学を定年退職後は、耳鼻咽喉科学講座を大所高所より暖かいまなざしで見守ってくださりご指導頂きました。

ここに追悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

松橋かおる元看護部副部長 春の叙勲の栄誉

本院看護部元副部長の松橋かおるさんが、平成30年春の叙勲において、瑞宝単光章を授与され、平成30年5月11日（金）国立劇場大劇場において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

松橋さんは、昭和50年愛知医科大学看護専門学校に入学され、開設間もない愛知医科大学附属病院で准看護婦として勤務を始め、その後43年間、看護サービス向上を目指し、看護師育成や看護部マネジメントにご尽力されました。

看護師時代は、自力歩行が可能な患者から生命維持を必要とする患者まで、多様で幅広い対応を経験し、看護の知識・技術を高めつつ、重篤な患者家族の精神的なケアにも心を向けられました。主任へ昇任されると、リハビリや介助を必要とする患者の多い神経内科では、部下に対し患者との向き合い方についてアドバイスを積極的にされました。部下は、患者自らが障害に立ち向かう意欲が持てるよう対応できるようになり、その結果、部下自身も仕事のやりがいを感じられるようになる等、指導力も発揮されました。師長に昇任され、多職種が入り混じる手術室を担当すると、手術が円滑に進むことを第一に考え調整役に徹し、また、外部業者との間に入り手術室の環境整備や職員の相談役も担い、室内全体のマネジメントに努められました。

副部長時代は、特に人材確保に注力されました。中でも、平成26年新病院開院に向けた人材確保の活動功績は大きく、全国各地のフォーラムへの参加、看護部ホームページの新設、インターンシップ、内定後の懇親会等の企画・実行によって、平成21年から平成27年までの6年間で約200名の増員を果たされました。



井上看護部長（左）と松橋さん（右）



松橋さんは、今回の受章に関して「この度、このような名誉ある章を頂くことができ、誠に身に余る光栄でございます。ひとえに愛知医科大学病院へ入職後今までご指導、ご支援頂いた諸先輩方、多くの同僚、厳しい指導にもついてきてくれた後輩たちの支えがあった賜物と感謝申し上げます。また長きにわたり心の支えになった遠き故郷の家族にも深く感謝し、ともに喜びを分かち合えたことを嬉しく思っております。」と感想を述べられました。

教育・研究・診療の施設・設備整備事業へのご協力のお願い



学校法人 愛知医科大学
理事長 三宅 養三

本学は、開学47年目を迎え、4,000人以上の医学部卒業生と1,500人以上の看護学部卒業生を世に送り出してきました。

その間に本学では教育環境の充実に努め、平成21年度には学生が利用する教育施設として医心館を完成させ、グループ・個人のいずれにも対応した学習環境を整備しました。

また、平成26年度には老朽化した附属病院を建て替えて新病院をオープンしました。

そして、平成29年度のバスロータリー、アメニティ棟「立石プラザ」、ドクターヘリ格納庫等の完成をもってキャンパス再整備事業がひと区切りを迎え、本学学生、教職員の活躍の舞台が立派に整って参りました。

しかしながら、少子高齢化の進展、医療制度の改革、医学・医療技術の飛躍的な進歩等の環境変化が急速に進み、本学の教育・研究・診療に係る施設・設備について、ハード・ソフトにわたる最新鋭化が絶えず求められています。更には、医学教育のグローバル化が一段と進展し、国際基準に対応した医学教育を構築するため、カリキュラム改革への取組みとともに教育環境の一層の充実が必要になっております。

本学の運営は改善基調にあるものの、こうした楽観を許さない厳しい状況の中で、今後永続的に発展し続けるためには、財政基盤の一層の強化・安定化を図る必要があります。そのため、「教育・研究・診療の施設・設備整備事業」募金を設けることといたしました。この趣旨をご理解頂き、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【募金要項】

- 1 募金目的 教育・研究・診療の施設・設備整備事業資金
- 2 募金目標額 10億円
- 3 募金1口の金額 個人：10,000円
法人・団体：50,000円

※できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。

- 4 募金の期間 平成30年4月～

【寄付金に対する税制上の優遇措置について】

1 個人の場合

ご寄付をされた方は、確定申告の際、「税額控除制度」と「所得控除制度」のうち、どちらか一方の有利な制度を選択し、税制上の優遇措置を受けることができます。

<税額控除制度>

寄付金額が2千円を超えた場合、その超えた金額の40%に相当する額を所得税から控除できます。

所得税率に関係なく所得税額から直接控除されるため、多くの方において、「所得控除制度」と比較して減税効果が大きくなります。

$$\left(\text{寄付金額} \times 1 - 2,000 \right) \times 40\% = \text{所得税控除額} \quad \text{所得税額の25\%が限度}$$

※1 年間総所得金額等の40%が限度となります。

(例) 年収1,000万円の寄付者が10万円寄付した場合

$$\left(100,000 - 2,000 \right) \times 40\% = 39,200 \text{円}$$

<所得控除制度>

寄付金額が2千円を超えた場合、その超えた金額が課税所得から控除され、所得税が減税されます。

$$\left(\text{所得金額(年収)} - \left[\begin{array}{l} \text{諸控除} \\ \text{寄付金} \times 1 - 2,000 \end{array} \right] \right) \times \text{所得税率} = \text{所得税額控除額}$$

※1 年間総所得金額等の40%が限度となります。

(例) 年収1,000万円の寄付者が10万円寄付した場合

$$\left(100,000 - 2,000 \right) \times 23\% \times 1 = 22,540 \text{円}$$

※1 平均的な世帯の諸控除額(基礎控除, 社会保険料控除, 扶養控除等)を想定した所得税率

2 法人・団体の場合

<受配者指定寄付金制度>

法人・団体の寄付金は、法人税法第37条第3項第2号に基づき寄付金額全額が当該事業年度の損金に算入できます。

免税手続きには日本私立学校振興・共済事業団の「寄付金受領書」が必要となりますが、これに関する事業団への諸手続きは、本学が行います。

【問合せ先】

資料請求等募金に関するお問い合わせは、次の部署にお願いします。

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室
Tel : 0561-63-1062 (直通)
Fax : 0561-62-4866
E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp

学長招聘講演会を開催

ハワイ聖ルカ・クリニック院長

小林恵一先生

ハレイワファミリーヘルスセンター

天野雅久先生

平成30年度の学長招聘講演会は、国際交流センター及び医学教育センターと連携し、米国で活躍されるお二人の先生を講師としてお招きし、ご講演頂きました。

講演会には、数多くの教職員や学生の参加があり、小林先生、天野先生の興味深いお話しに、時には笑いに包まれながら、参加者は熱心に聞き入っていました。また、講演会終了後も、立石プラザにおいて先生方を囲んで、学生を中心とした懇親会が和やかに開催されました。

各講演会の詳細は、次のとおりです。

ハワイ聖ルカ・クリニック院長

小林恵一先生

平成30年5月29日（火）午後6時から大学本館201講義室において、ハワイ聖ルカ・クリニック院長の小林恵一先生を講師にお招きし、「アメリカへの挑戦」と題し、学長招聘講演会が開催されました。

小林先生は、アメリカ海軍横須賀病院においてインターン終了後、海外病院においてレジデントとして研鑽を積み、1997年にハワイ州ホノルルに総合クリニックを開業されご活躍されています。

講演では、アメリカ海軍横須賀病院での診察経験や、ハワイでの開業により得た数々の経験談について、ユーモアを交えながら、分かり易くお話し頂きました。また、アメリカにおける医療制度の大変革について、実際にア



講演する小林先生

メリカで起きている問題点や対応方法等の説明があり、最後に、英語の勉強方法として、海外ドラマを利用した教材の紹介がありました。

貴重なご講演ありがとうございました。

ハレイワファミリーヘルスセンター

天野雅久先生

平成30年6月12日（火）午後6時から大学本館201講義室において、本学医学部卒業生（平成16年）で、現在はハレイワファミリーヘルスセンター・家庭医の天野雅久先生を講師にお招きし、「ハワイで家庭医になって一歩んできた道、医療システムの違い」と題し、学長招聘講演会が開催されました。

天野先生は、本学を卒業後、みさと健和病院において初期研修を開始され、石岡第一病院、神津島診療所での研修、卒後6年目には沖縄米海軍病院日本人インターンプログラムを終了された後、ハワイ大学家庭医療レジデンスとして研鑽を積み、現在はハレイワファミリーヘルスセンターの家庭医として活躍されています。

講演では、日本での初期研修の経験からプライマリケアに関心を抱いたこと、留学経験を踏まえて学生時代から憧れていた渡米までの経緯について、米国医師資格試験（USMLE）取得の苦勞を交えながらお話し頂きまし



講演する天野先生

た。また、ハワイで診察をするに当たり、受診方法・処方・患者層・保険制度に至るまで、時よりクイズを踏まえながら日本との医療システムの違いを大変分かり易く説明して頂きました。

講演会には、天野先生が本学陸上部創設メンバーであったこともあり、現役陸上部員を始め数多くの学生と教職員の参加がありました。

貴重なご講演ありがとうございました。

平成30年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！聴いてみよう！医科大学の公開講座
～知って得する最新医療～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を毎年度開催しています。平成30年度の公開講座は、テーマを「知って得する最新医療」と題し、9月1日（土）から毎週土曜日の計4回にわたって開催することとなりました。

受講方法及び内容等は次のとおりです。

【受講方法】

- ・受講対象者 一般市民
- ・募集人数 400人
- ・受講料 無料
- ・会場 本学たちばなホール
- ・申込先 公開講座1係

【内容等】

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月1日（土）	10：00～12：00	医療の主役は患者さんです —市民が模擬患者として活躍する医学・看護学教育を覗いてみよう！— クリティカルケア看護学 教授 阿部 恵子 クリティカルケア看護学 講師 黒澤 昌洋
9月8日（土）	10：00～12：00	～もっと身近に緩和ケア～自分らしく生きるために 緩和ケアセンター 教授 森 直治 “がん”と告げられたら 臨床腫瘍センター 教授 三嶋 秀行
9月15日（土）	10：00～12：00	いろいろな病気の治療に役立つ低侵襲なカテーテル治療 —お腹の病気を中心に— 放射線科 教授 鈴木耕次郎 知って得する最新医療“肺癌” 呼吸器外科 教授 矢野 智紀
9月22日（土）	10：00～12：00	アルツハイマー型認知症の治療 脳卒中センター 准教授 泉 雅之 ウイルス性肝炎の最新情報 肝胆膵内科 教授 伊藤 清顕

尾張旭市健康講座開催

～聞こえともの忘れの気になる関係～

平成30年7月26日（木）午後1時30分から、尾張旭市のスカイワードあさひ6階ひまわりホールにおいて、尾張旭市の健康講座が開催され、医学部耳鼻咽喉科学講座の内田育恵准教授（特任）が「聞こえともの忘れの気になる関係」と題して講演を行いました。

今回で3回目となるこの健康講座は、募集開始後すぐに50名の定員枠に達するほどの人気講座です。

講師を務めた内田准教授（特任）からは、「聞こえ」の基礎的な知識や「ことばの認識と処理」のメカニズム、そして、今注目を集めている30歳を過ぎる頃から始まると言われる「加齢性難聴」と「認知症」のリスクについて、実際の会話がどう聞こえるか音声による聞き分けを交えながら解説がありました。参加者の皆さんからは、「難聴が認知症の危険因子の一つだと初めて知りました。」「身近な病院に相談できる先生がいて良かった。」などのご意見を頂き、楽しみながら健康について学べる



講演する内田准教授（特任）

講座となりました。

本学では、今後も尾張旭市との連携を活かしながら、各種イベント等を企画していきます。

小寺良尚名誉教授 公益財団法人日本骨髄バンク理事長就任



平成30年6月21日（木）に開催された公益財団法人日本骨髄バンク臨時理事会において、本学名誉教授の小寺良尚先生【写真】が理事長に就任されました。

理事長にご就任された小寺名誉教授から「本年6月より公益財団法人日本骨髄バンクの理事長を務めるこ

ととなりました。四半世紀前に発足した骨髄バンクは、これまでに22,000例を超える移植を実施して参りましたが、更なる発展のため微力を尽くしたいと思っております。」とのメッセージを頂きました。

公益財団法人日本骨髄バンクホームページ：
<http://www.jmdp.or.jp/>

国家試験日程のお知らせ

◆第113回医師国家試験

- ・試験日 平成31年2月9日（土）、10日（日）
- ・合格発表日 平成31年3月18日（月）

◆第108回看護師国家試験

- ・試験日 平成31年2月17日（日）
- ・合格発表日 平成31年3月22日（金）

◆第105回保健師国家試験

- ・試験日 平成31年2月15日（金）
- ・合格発表日 平成31年3月22日（金）

平成30年度医学部父兄後援会定期総会開催

新会長に加藤政隆氏を選出



平成30年5月27日（日）午前10時から大学本館7階711特別講義室において、平成30年度愛知医科大学医学部父兄後援会・父兄互助会定期総会が開催されました。

平成29年度父兄後援会・父兄互助会の事業報告及び決算報告があり、平成30年度役員改選に移り、会長の加藤政隆【写真】を

始め、総勢19名の新役員が選出されました。

加藤新会長のあいさつの後、平成30年度事業計画及び予算案が原案どおり承認されました。

総会終了後は、三宅養三理事長、若槻明彦医学部長、石橋宏之教務部長、島田孝一法人本部長からそれぞれごあいさつがありました。

なお、昼食を挟んで、午後1時から4～6学年次生のご父兄を対象に国試懇談会が開催されました。

平成30年度看護学部父母会定期総会開催

新会長に黒野俊介氏を選出



平成30年5月19日（土）午前10時から看護学部棟N301講義室において、平成30年度愛知医科大学看護学部父母会定期総会が開催されました。

会則に基づき議事が進行し、平成29年度の事業報告及び決算報告が原案どおり承認されました。

続いて平成30年度役員の改選が行われ、黒野俊介新会長【写真】を始め、総勢15名の新役員が選出されました。その後、平成30年度事業計画案及び予算案がいずれも原案どおり承認されました。

議事終了後、来賓の坂本真理子看護学部長、高橋佳子教務学生部長からそれぞれあいさつがあり、盛会のうちに定期総会は終了しました。

総会終了後には、父母と大学教員との学年別懇談会が開催され、大学からは各学年主任及び副主任の先生方が出席し意見交換が行われました。この学年別懇談会は、父母と大学の双方が定期的に情報や意見の交換を行うことで、学生がより良い大学生活を送れるようにと毎年行われています。

理事長訓話

平成30年7月25日（水）大学本館たちばなホールにおいて、全教職員を対象としたSD研修として、理事長訓話を実施されました。

当日は、三宅養三理事長から「教職員に期待する『具眼考究』の実践」をテーマにお話があり、教職員366名が出席しました。また、訓話の内容は、学内イントラネット上で視聴することが可能で、業務都合等により当日出席できなかった教職員も動画で受講できるようになっています。

受講した教職員からは、「理事長の考えを聴くとても良い機会となった。」「太田元次初代理事長のお話を聴き、とても感動しました。愛知医大の歴史を学ぶことの大切さを感じました。」「具眼考究の精神で教育と研究



大学の歴史について解説する三宅理事長

を邁進していきたいと改めて思います。」といった感想がありました。

科学研究費助成事業執行方法等説明会開催

平成30年5月17日（木）・6月22日（金）の2日間、大学本館305講義室において、科学研究費助成事業（科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金）の執行方法等説明会が開催され、51名の参加がありました。

この学内説明会は、今年度に科研費の補助事業者となっている研究代表者及び研究分担者を対象に、採択された科研費の制度に関する理解の向上と適正な執行を確保し、不正防止等の徹底を図ることを目的に毎年開催しているものです。

説明会では、研究支援課の加藤広悟主事から、年間の

スケジュール、補助金制度と基金制度の相違点、ルール改正、学内執行ルール及び補助事業遂行に当たっての留意点等について説明がありました。また、最近の研究費不正使用に関する事例も紹介され、出席者に対して不正使用防止に向けた注意喚起がありました。

説明会終了後には、研究代表者及び研究分担者から、制度の内容や執行の方法等についての確認や相談があるなど、科研費の適正な執行と管理に向けて意義のある説明会になりました。

会計事務担当者向けの研修会を開催

平成30年7月18日（水）・19日（木）（各日午前及び午後各1回の計4回）にわたり、7号館（医心館）多目的ホールにおいて、会計事務担当者研修会が開催され、各講座等の会計事務担当者等62名が出席しました。

この研修会は、各講座及び事務担当部署等において研究費の会計を担当している助手、臨床技術員、事務職員等を対象に適正な会計処理を行うことができる正しい知識の習得を目的として開催されたものです。

講師は、前財務・管理室長で、現在は財務推進監、医学部同窓会事務長などを務めている前田一成氏が務め、学校法人会計に関する基礎知識等会計処理に必要な不可欠

な事柄について丁寧に説明があり、初めて開催した昨年度よりも実務に則した内容とし、出席者は改めて適正な会計処理の重要性について理解を深めました。

科学研究費助成事業への申請件数増加など、本学における研究活動が活性化する中、それに付随して研究費の適正な会計処理は必ず求められるため、今後もこのような研修会を開催し、正しい知識の普及を推進していきます。

また、本研修会は今後も内容を変えて、定期的に開催していく予定です。

医学教育分野別評価模擬審査実施

本学医学部は、2019年9月2日～6日の日程で、日本医学教育評価機構(JACME: Japan Accreditation Council for Medical Education)による医学教育分野別評価を受審することが決まっています。過去2年間にわたって、受審に向けた医学教育の改革を進め、それに基づく自己点検評価書の作成に努めてきており、平成30年末までに、この報告書のブラッシュアップが進められていきます。

平成30年6月14日(木)には、報告書の基となる原稿が全て揃ったこともあり、分野別評価の審査に精通されている新潟大学総合医学教育センターの鈴木利哉教授を講師にお迎えし、医学部FDも兼ねた「自己点検評価書の模擬審査」(領域2「教育プログラム」・領域7「プログラム評価」)が開催されました。【写真】

同FDでは、本学における医学教育の実態について、厳しいご指摘を頂くようお願いをしていたこともあり、これまでなかなか改革が進まなかった様々な課題を一挙に解決するための意見を多く頂くことができ、改革の良い契機となった模擬審査となりました。



特に、診療参加型臨床実習での学生と患者接触の機会の確保、学生が経験する症例の確保などについては、非常に具体的かつ有益なご指摘を頂きました。また、プログラム評価については、全国的に見ても、まだ十分な体制が整っていないことが分かっていますが、本学も同様であり、今回の模擬審査での指摘を受け、早速その体制づくりが進められることとなりました。

本年10月以降には、その他の領域の模擬審査も実施し、受審へ向けての総仕上げをしていく予定となっています。

ベストティーチャー賞表彰

平成30年6月26日(火)午後4時30分から大学本館役員会議室1において、ベストティーチャー賞授与式が行われました。

ベストティーチャー賞は、平成29年度から新たに導入された制度で、学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により、教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

第2回目となる今回は、大学院(医学研究科・看護学研究科)並びに学部(医学部・看護学部)から合わせて9名の教員がベストティーチャーに選出され、佐藤啓二学長からそれぞれ表彰状が授与され、称揚と更なる期待の言葉をかけられました。

本学では、今後も授業改善に向けた取組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

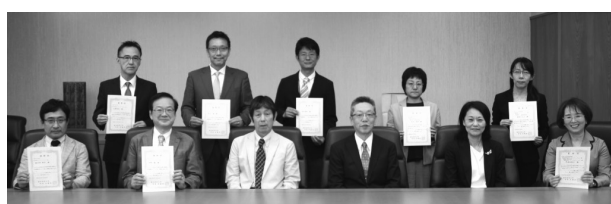
ベストティーチャーを受賞した教員は、次のとおりです。

大学院

- 医学研究科(平成29年度)
 - ・天野 哲也教授(内科学講座(循環器内科))
- 看護学研究科(平成29年度後学期)
 - ・八島 妙子教授(老年看護学領域) ※欠席
 - ・茅喜田恵子教授(精神看護学領域)

学部

- 医学部(平成29年度後学期)
 - ・中野 隆教授(解剖学講座)
 - ・高木 秀和講師(感染・免疫学講座)
 - ・住友 誠教授(泌尿器科学講座)
 - ・春日井邦夫教授(内科学講座(消化管内科))
- 看護学部(平成29年度後学期)
 - ・若杉 里実教授(地域看護学)
 - ・篠田かおる准教授(基礎看護学)



授与式での記念撮影

平成30年度医学部解剖慰霊祭挙行

平成30年5月14日（月）覚王山日泰寺において、平成30年度の医学部解剖慰霊祭が、本学からは医学部長及び解剖学講座並びに病理学講座を始めとする関係教職員約30名、医学部の2学生次生の126名が参列する中、195名のご遺族をお迎えして厳かに執り行われました。

今年度の慰霊祭では、平成29年10月から系統解剖と病理解剖にご遺体を供せられた39柱の御霊を新たに合祀し、総数5,042柱の御霊に対し、法要が営まれました。

午後2時、導師の入堂により祭儀が始まり、若槻明彦医学部長と北村直哉不老会理事長の慰霊の辞、続いて、学生代表として医学部3学年次生の林杏奈さんが「実習を重ねるごとに、医学生としての意識が研ぎ澄まされ、初めに抱いていた少しの恐怖心は、ご献体から得られる知識を最大限に習得しなければならないという使命感と、もっと知りたいという真摯な好奇心に変わりました。私はご献体くださった方の意思とご厚意に感謝し、日々進歩する医学に貢献することをここに誓います。故人のご遺志の下、ご献体にご理解を賜りましたご遺族の方々、不老会の皆さま方に対し、深く感謝を申し上げるとともに、改めてご献体くださった御霊のご冥福をお祈り申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。」と礼辞を述べ、御霊に深い感謝と尊崇の念を捧げました。

この後、僧侶の読経が響きわたる中、若槻医学部長、解剖学講座を代表して内藤宗和教授、病理学講座を代表して池田洋教授がそれぞれ焼香し、続いて学生代表として医学部3学年次生の加藤佑啓さんが、その後、参列者一人ひとりが焼香して献体者のご冥福を祈りました。



黙とうを捧げる学生たち

午後3時、若槻医学部長の参列者に対する謝辞をもってつつがなく慰霊祭が終了し、参列者は、学生が見送る中を帰路につきました。

愛知医科大学不老会会員の集い開催

平成30年6月9日（土）午前10時30分から大学本館たちばなホールにおいて、平成30年度愛知医科大学不老会会員の集いが開催されました。

当日は、愛知医科大学に献体の登録をされている不老会の会員及び役員並びに各地区代表の方々87名が参列し、本学からは若槻明彦医学部長、解剖学講座の内藤宗和教授及び中野隆教授を始め、医学部2学生次生126名が参加しました。

式典は、若槻医学部長、藤内美也子愛知医科大学部会・副部会長及び北村直哉不老会理事長からのあいさつがあり、続いて、医学部3学年次生の東原康洋さんから「解剖学実習をするまでは、言葉や図のみでしか捉えることができなかった『人体の構造』が、解剖学実習で初めてご遺体に触れ、人体の構造をこの眼で観て確認し、議論しながら進めることで、より具体的で立体的な人体の構造を学ぶことができました。医師を目指す私たちが学ばせて頂いているこの機会が、様々な信念や決断の上に成り立っていることを改めて自覚するとともに、このような大変貴重な機会を頂けことに深く感謝しております。」と感謝を込めた学生体験発表がありました。



あいさつする若槻医学部長

会員の集い終了後には、衛生学講座の鈴木孝太教授から「『病気を治す』のではなく『健康を守る』医師とは？」をテーマに記念講演が行われ、参加者に分かり易く講演されました。

その後、大学本館1階レストラン「オレンジ」において、参加者と医学部学生及び教職員との昼食・懇談会が和やかに行われ、献体登録者との懇談は、学生にとって貴重な時間になりました。

学生トピックス

医学部5学年次生の高橋周治さん

第102回日本陸上競技選手権大会（男子100m）に3年連続出場

医学部5学年次生の高橋周治さん【写真】が、平成30年6月22日（金）～24日（日）山口県の維新百年記念公園陸上競技場において開催された第102回日本陸上競技選手権大会で、男子100mに3年連続で出場しました。惜しくも準決勝敗退と3年連続での決勝進出はできませんでしたが、日本のトップアスリートたちと肩を並べて走る高橋さんの勇姿に、多くの方からご声援を頂きました。

大会を終えた高橋さんに、大会に臨むまで、そしてこれからの目標などについて取材しましたので、ご紹介します。

——3大会連続での出場となりましたが、今回の大会にかける思いを教えてください。

今回は少し受け身の気持ちで臨んでしまったところがありました。「勝ちたい」という気持ちよりも「負けてはいけない」という気持ちになってしまったところが、今回の準決勝敗退という結果になってしまったように思います。

——本番までに心掛けていたこと。また、苦勞したことがあれば教えてください。

昨年の11月から臨床実習が始まっており、練習のペースがこれまでと変わったことで調整の部分では苦勞しました。工夫が足りなかったと反省しています。

——大会を通して感じたこと。他の選手との会話などの思い出深いエピソードがあれば教えてください。



今回の大会では、他大学の医学生の活躍が目立ちました。秋田大学5年の広田有紀さん（女子800m）や名古屋大学4年の真野悠太郎さん（男子400mハードル）といった医学生の活躍は、私にとってすごく刺激をもらえました。自分もこうした医学生にならって、まだまだ頑張らないといけないという気持ちになりました。

——これからの挑戦や目標を教えてください。

これからの目標は、自己ベスト（10秒27）を更新することです。残りの陸上人生はそう長くないですが、自分の走りはまだ完成形ではないので練習を工夫して、いけるところまで伸ばしていきたいです。

医学部成績優秀者表彰

本学医学部では、平成29年度の成績が各学年上位の者で、出席状況及び勉学態度等が他の模範となる学生に対して適用された成績優秀者に対し、本人の学習意欲の高揚を更に図るため、顕彰制度を設け表彰しています。

平成30年5月9日（水）午後5時40分から、7号館（医心館）1階多目的ホールにおいて、医学部2～6学年次生の各学年5名の合計25名に対して、佐藤啓二学長から表彰状及び記念品が授与され、一人ひとりに称揚と更なる期待の言葉をかけられました。



成績優秀者の学生と記念撮影

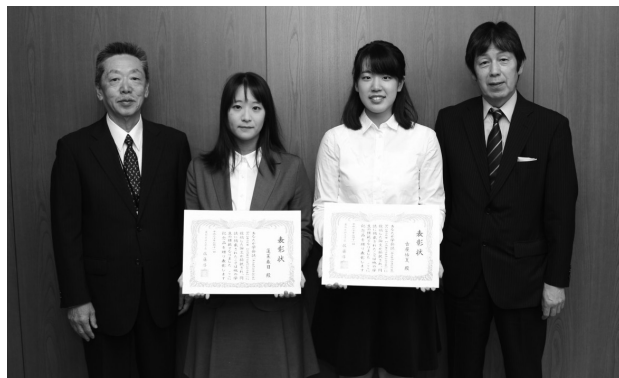
学生表彰

医学部6学年次生の蓬萊春日さんと4学年次生の古屋佑夏さんが、日本解剖学会学会誌「Anatomical Science International」に投稿した学術論文が採択され、同誌に掲載されました。

これは、解剖実習において見出した極めて稀な腎臓変異例について、先行研究症例と比較検討し、発生学的及び臨床医学的な考察を加えて英文論文にまとめたもので、学術的に優れた内容であることが国際的に評価されたものです。

これを受け、他の学生の模範となるこの活動を評価し、平成30年7月11日（水）学長室において、佐藤啓二学長から表彰状と記念品が贈呈されました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。



佐藤学長・若槻医学部長との記念撮影
蓬萊さん（左）と古屋さん（右）

医学部・看護学部1学年次生医看合同シンポジウム開催 ～他職種連携教育の実践～

日本の医学教育は、大きな転換期を迎えています。高齢社会を迎えた日本の健康問題に焦点を当て、地域社会で求められる医療人とは何なのかを真剣に考えた際に、多職種連携、施設間連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる能力を涵養するための教育が急務です。

このような医学教育の流れを受け、本学では平成30年度から新たに医学部・看護学部合同による多職種連携教育（IPE：Inter Professional Education）に力を入れることになり、平成30年6月1日（金）大学本館たちばなホールにおいて、医学部・看護学部1学年次の医看合同シンポジウムが開催されました。

シンポジウムでは、始めに長久手市の吉田一平市長から「行政の立場からの多職種連携」について、本院入院支援センターの川崎香奈子師長から「大学病院と地域医療機関との連携」について、最後に医療法人香徳会副理事長の加藤公彦先生から「都市部の地域病院における多職種連携・地域連携」についてそれぞれご講演を頂きました。



集中して吉田市長の話を聞く学生たち

学生からの質問は活発で途切れることなく、最後まで一方向にならない積極的な態度が見られ、ご講演頂いた方々に高い評価を受けました。

学生たちにとって、地域における多様な職種の方々との連携がどれだけ重要なのかを理解する良い機会になり、非常に有意義なシンポジウムになりました。

医学部2学年次外来案内実習実施

平成30年7月24日（火）～26日（木）の3日間にわたり、医学部2学年次の授業科目「外来案内実習」（患者さんエスコート実習）が行われました。

この実習は、医学生として患者さんの診察受付から会計、薬の受け渡しまで同行し、患者さんがどのように診療を受けているか、また大学病院における医療の実態を知ることによって医療がどうあるべきか、医療従事者とはどのようにあるべきかを自分自身に問いかけることを目的とし、112名の学生が参加しました。更にこの実習では、患者さんとのコミュニケーションの大切さを学び、将来、医師となる上での自覚を深め、日々の学習に活かすことも期待されています。

実習初日、本院中央棟オアシスホールに集合した学生たちは、科目責任者の鈴木孝太教授（衛生学講座）を始め、関係教員の指導の下、まずは来院患者さんに付き添いの承諾を得ることから実習を開始しました。

学生の多くは、緊張した面持ちで声をかけていましたが、診察などを待つ時間に患者さんとコミュニケーションを図り、患者さんからは「荷物を持ってもらって助かった。」「学ぶ姿勢がとても良かった。」などの感謝のお言葉やお褒めの言葉を頂きました。また、学生も患者さん一人ひとりと向き合うことの大切さを実感したようです。

今後も、患者さんの声を含め、関係部署の方のご意見を基に改善しつつ、この実習を継続し、患者さんの立場に立てる良き医師の育成に努めていきます。



患者さんへ声をかける学生たち

平成30年度看護学部キャンドルセレモニー挙行

平成30年6月23日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて、平成30年度看護学部キャンドルセレモニーが挙行されました。【写真】

平成30年度からカリキュラムの変更に伴い、例年10月に開催していたキャンドルセレモニーが、7月から開始される看護実習に先立って6月に変更されました。

始めに、佐藤啓二学長から「今日は『医療者として歩む覚悟』を定める日であり、『病める人を支え、治癒をもたらすために戦う』という強い気持ちと行動が求められるとの自覚を認識し、社会で活躍できる看護職者を目指してほしい。」との式辞が述べられました。

続いて、坂本真理子看護学部長から「これから始まる看護実習を通して、皆さんは看護の魅力に近づいて行きます。質の高い看護を提供するために患者さんを始め全ての出会いを成長の糧として自覚と自立を持って努力をしてください。」とのメッセージがありました。

その後、学生一人ひとりが坂本学部長から手渡された燭台に、ナイチンゲール像から灯火を受け継ぎ、104名全員で「誓いの言葉」を述べ、愛知医科大学看護の歌「愛の使命」を合唱し、厳粛な雰囲気の中、セレモニーは無事終了しました。

このキャンドルセレモニーは、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、看護職者となるための決意を新たにする場として2学年次生の実行委員が中心となって企画し、学生たちが一致団結して運営しているものです。



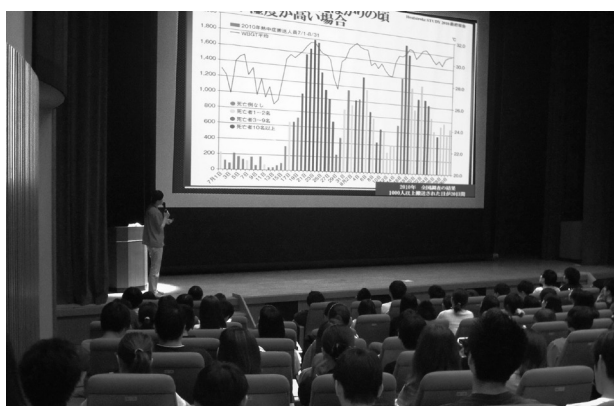
これから本格的に始まる看護学の修得に一層力を注ぎ、高度な知識・技術を兼ね備えた心豊かな看護職者へと成長することが期待されます。

熱中症予防の講演会開催

平成30年6月27日（水）午後5時40分から大学本館たちばなホールにおいて、両学部のクラブ加入者全員を対象に、医学教育センターの青木瑠里講師による熱中症予防の講演会が開催されました。【写真】

青木講師からは「熱中症のメカニズムと手当てについて」と題して、熱中症発生のメカニズムや予防に必要な水分とミネラルの重要性、熱中症になってしまった場合の対処方法等について講演頂きました。

今年は例年以上の猛暑続きが予測され、熱中症患者の発生がテレビや新聞紙上で報道されています。本学の学生も、8月上旬から開催される西日本医科学学生総合体育大会（西医体）に向けて、昼間に練習する時期となるため、参加した約450名の学生も真剣な眼差しで聞き入っていました。



この講演会で得た知識を活用して、安全かつ効率的な練習を行い、西医体での活躍を期待します。

南イリノイ大学医学部短期留学体験記

本学では、南イリノイ大学（SIU）医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っており、この交換プログラムの一環として、臨床実習選択（Elective）コースと2学年次カリキュラム受講（PBL）コースの二つのコースへ医学部学生を派遣しています。

平成29年度のプログラムとして、Electiveコースへ平成30年1月27日（土）から3月25日（日）まで3名、また、PBLコースへ3月4日（日）から3月25日（日）まで7名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「SIU臨床実習選択コース」への派遣者

私は小児科、家庭医療科、救命救急科で臨床実習をさせていただきました。学生も医療チームの一員とみなされ、いずれの科においても問診をとって身体診察をし、患者さんの状態の評価と治療方針を先生にプレゼンし、フィードバックをもらうことで日々成長できました。日本では未導入の治療法もあり、医療分野での相違点を感じるとともに、外来で患者さんと接するたびにそれぞれのダイナミックでもあり繊細でもある考えに触れ、まさに自由で多様性に富む文化を肌で感じました。

2か月間新しい発見の連続で、素晴らしい先生方や学生との交流もあり、広い視野と柔軟な思考を持つことの大切さに改めて気づいた留学となりました。

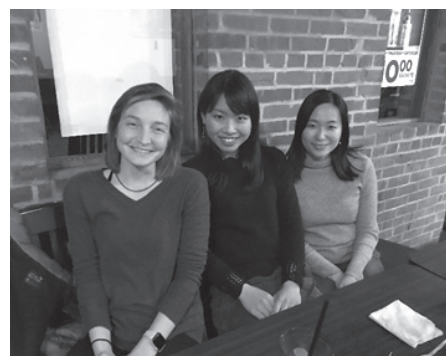
今回の臨床実習留学では、ファミリーメディスンと救急を選択しました。いずれも患者さんの問診や身体診察結果を医師にプレゼンし、その後医師の診察を見学してから、フィードバックをもらうといった実習内容でした。

日本との違いに驚いたのは、anxietyや自殺企図で来る患者さんの多さ、避妊方法の多様さ（ピルや避妊リングに加え、手軽なパッチ、3か月に1度の注射のデポショット、上腕内側に埋込むインプラント）や保険制度の違いでした。入っている保険によりカバーされる検査が異なる点や被曝リスクがあり高額のCTへの慎重さ、CRPでなくより安い乳酸で炎症反応を見るなど、日本では知ることのなかったアメリカの現状に触れることができ充実した2か月でした。

SIUにelectiveコースで2か月間留学しました。私は、初めの1か月間はGynecologic Oncology、残りの1か月間はFamily Medicineを選択しました。国外で実際の医療現場に立つことができ、とても充実した2か月間でした。

文化や国民性の違いを医療現場でも感じましたし、疫学、治療法などにおいても違いを学びました。特に外科系については、ダ・ヴィンチが主流であり、日本はそれを追いかけているように感じました。アメリカの医療現場から学び、取り入れることで更に発展できると感じる点もありましたが、保険制度など日本の方が優れていると感じる点もありました。この経験を今後に関し、精進して参ります。

医学部6学年次生 岩瀬 史歩



岩瀬さん（中央）

医学部6学年次生 中島 文



中島さん（前列左から4人目）

医学部6学年次生 山内 桂花



山内さん（中央）

「SIU2学年次カリキュラム受講コース」への派遣者

医学部5学年次生 伊藤由希子

まず留学初日に、SIUの学生とのPBLで知識量や発言力に圧倒されました。このままでは一言も話せないまま終わってしまうと思い、心掛けたことは「考えるより先に手を挙げる」ということでした。拙い英語でしたが、なんとか発言機会を得るようにし、英語力と積極性が伸びました。

また、SIUの学生と3週間をともに過ごす中で、論理的な思考や説明力が自分にはまだまだ足りないことを実感しました。自分の思考過程を相手に説明するということは、良い学習方法であるだけでなく、医者としても重要なスキルだと思います。

SIUで得た財産を生かし、残り2年間の学生生活をより良くしたいです。留学に参加して良かったと心の底から感じています。

医学部5学年次生 牛久潤彦

振り返ると南イリノイ大学(SIU)での留学は短い期間でしたが、非常に濃く充実した時間を過ごさせて頂きました。私は「失敗や挫折を恐れず挑戦し、絶対に後悔をしない3週間にする」という目標を立てて挑みました。なかでも、初回のSIUの学生とのグループセッションでPBLを行った際、彼らの積極性に圧倒され、自分の未熟さに悔しさを感じたのは今でも忘れません。PBLや講義における学生の発言や姿勢は、本学と大きな差を感じましたし、彼らに負けまいと毎日自分を鼓舞し、試行錯誤しながら自身の目標を達成することができたのは成長と自信につながりました。

今後、この貴重な経験を生かして、また新たな目標に向かって日々精進していきたいと思っています。

医学部5学年次生 小出里沙

今回のSIUへの留学は、私にとって2回目でした。しかし、昨年とは全く違うものを得ることができました。今年は昨年よりも精神的に余裕があり、昨年は気が付かなかったことに気付くことができ、理解できなかったことを理解できるようになりました。また、アメリカの友人もできました。留学中は、去年の自分と比較してしまい、また、セッションでは自分の期待していたように発言できないこともあり、自信を失っていましたが、そんな時もアメリカの友人に助けられました。

今回の留学では、勉強だけではない大切なことを学べた気がします。2回行かなければ気が付けなかったことが多くあり、今回の留学に再び参加できたことに感謝しています。

医学部5学年次生 椎原 眞

エイブラハム・リンカーンにゆかりのある地でアメリカの医療を学ぶ機会に恵まれ、様々な方々と触れることができました。SIUへの留学は、3週間程度と短くも長くもないちょうどよい期間であって、クリニカル・クラークシップ1の実習がやや間延び感がでてきた頃にアメリカへ留学する機会を得たことは思い出になりました。これからの人生で「アメリカでは云々…」ということを行う人に対しても、それなりの対応ができるようになったでしょうし、アメリカという異邦の地でその期間をなんとかすることができたということは、これから僻地に飛ばされてもなんとかやっていけるという自信がついたと思います。

医学部5学年次生 日根野 清

今回の留学では、本当に大切なことを学ぶことができました。何よりも感動したのは、英語が初めて言葉として機能したこと。今まで、英語は入学試験に合格するために勉強しているという感じでしたが、実際に英語を人とのコミュニケーションに使い、言葉が通じた時にはこの上ない感動がありました。それに日本語をうまく英語に変換できず言葉が出てこないと悔しい気持ちになり、もっと英語が上手になりたいと思えました。アメリカの学習の仕方は日本よりもグループ学習が多く、アウトプットできる機会がたくさんあり効率が良いと感じました。アメリカでの友達もできて本当に有意義な時間を過ごすことができました。

医学部5学年次生 筆谷 堯

SIUへの派遣は、私にとっては今回が2回目の参加となりました。より多くの医学的知識を身につけてから始めたという点で、前回とはまた違った視点からSIUの学生らとディスカッションをすることができました。本学と異なる環境での医学学習の形態を実際に体感したことで、それぞれの特徴や長所を感じる事ができました。また、SIUの先生方のご厚意によって、臨床手技をトレーニングするための施設を見学させて頂きました。設備も充実しており、いつでも自主学习に使用できるということには、特に驚嘆しました。

この3週間は、短いながらも充実したものであり、自身が医学を学び続けていくに当たっての良い刺激を受けました。

医学部4学年次生 花岡 黎

私は入学した時からずっと留学に憧れていて、3年の時を経てついにその願いが叶いました。PBLの本場である南イリノイ大学での授業は、一つの病気の病態から症状、検査、治療までを人に説明できる必要があり、私は自分の持っている知識を全て活用し、更にそれを英語で伝えなければならなかったため、とても大変でしたが勉強になりました。

「人に説明できる」という勉強は、日本に戻った今でも意識しています。また、勉強に限らず、南イリノイ大学の学生との交流、シカゴやセントルイスでの観光、外国での生活は自分の教養を広げ、人格を成長させてくれました。



日本人セッショングループでの集合写真

医学部早期体験実習（看護体験実習）体験記

医学部では、医療チームの一員として協働できるようになるために、患者さんを中心にして、多数の医療スタッフが共同で仕事をしていることを理解し、他職種連携の病棟業務を体験することによって、コミュニケーションの重要性、医師としての態度、今後必要な医学的知識・技能を確認し、今後の学習へのモチベーションを高めることを目的として、1学年次のカリキュラムに早期体験実習1b（看護体験実習）を導入しています。

今年度は、平成30年6月12日（火）～14日（木）の期間中に、医学部1学年次の学生116名が各部署で看護体験実習を行いました。実習を終えた学生の体験記をご紹介します。

医学部1学年次生 関戸 結衣

今回の実習を通して、病棟の雰囲気、看護師の仕事内容、医師の回診の様子や患者さんの様子をじかに見ることができ、実感がわきました。今まで模型や学生相手だけでしたが、患者さんを相手に処置やケアを行うことはより一層難しいとも感じました。

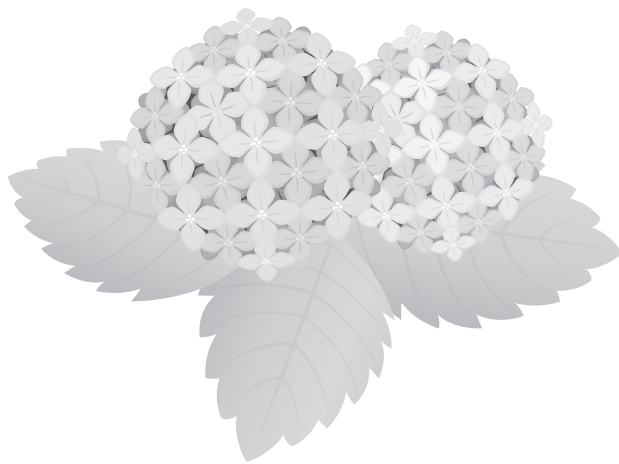
実習の1日目は、病棟の雰囲気をつかみ、看護師の仕事について学ぶことができました。想像していたよりも患者さんがいる病棟の雰囲気が明るく、一度も入院経験のない私には驚きでした。回診をしていた医師も口調は少し乱暴に聞こえるけれど、入院患者さんとの信頼関係があるからこそスムーズに診察、処置をすることが可能であると思いました。また、看護師の仕事はシミュレーション実習で行ったものとは少し異なる内容や知らなかった内容もあり、不安を抱えながら患者さんに対して行うことは非常にこわいことであるとも感じました。

2日目は、処置やケアを体験させて頂く機会が1日目と比べて多く、様々なケースを見ることができました。人工呼吸器をつけている患者さんの清拭では、自らの意識か無意識か分かりませんが人工呼吸器を外そうとする姿を拝見したこともあり、呼吸器をつけている患者さんのケアについてよく考えなければならぬと思いました。担当の看護師さんが言われるには、意識的とも思えると仰っていたので、もし外したいと思っていた場合には、どうするべきなのかと疑問に思いました。また、言葉は発せないけれど声は聞こえているので、ケア中の会話なども気を付けなければならぬと思いました。別のケースでは、患者さんの洗髪のお手伝いをしました。その患者さんは、頭部にも炎症が少しあったので、手に伝わる感触に驚きながら、どれほどの力加減でいいのかと悩みながらのケアでした。経験を積むことで、解決するのかもしれないけれど、今は患者さんに確認をとりながら行っていくことが必要だと感じました。

3日目は、血管外科の処置の見学と患者さんのケアを行うことができました。血管外科の処置は見るのがつらいと感じてしまいましたが、今後は乗り越えないといけないことだと思うので、徐々に適応していきたいです。患者さんのケアでは、今までよりもゆっくり回ることができたので、患者さんとお話する機会も多かったです。

患者さんとの会話で、患者さん自身のキャラクターや考え方、感じ方を知ることができ、体の症状だけを聞くのではなく、世間話も多少入れたほうが良いと思いました。

今回の実習で、自分にとって最も苦手であると感じたことは患者さんに話題を振ることでした。今回は聞き手に回る事が多くなってしまい、患者さんの話は聞くことができたのですが、上手に話しをまとめたり、展開したり、患者さん自身の症状の話に戻したりすることができませんでした。今後患者さんと接するときには、声のトーンに気を配り、話を聞き出すことができるようにしていきたいと思いました。



国際交流

タイ王国マハサラカム大学短期留学生来学

平成29年10月に本学看護学部とタイ王国マハサラカム大学（MSU）との間で学術交流と協力に関する覚書が締結され、相互に短期留学生を派遣し合うことが合意されました。

この度、MSUからの短期留学の第一陣として、平成30年7月29日（日）～8月4日（土）の日程で、学生6名と引率教員2名が来学しました。【写真】

留学生たちは、講義、演習、病院実習、施設見学を組み込んだプログラムにより、日本の看護教育・実践について多面的に学ぶ一方、本学の看護学生も留学生との交流を通じてタイの看護、教育、文化に対する理解を深めることができました。

本学学生が企画したウェルカムパーティーでは、民族衣装を着た留学生たちによるタイ舞踊が披露され、会場は大いに盛り上がりました。

平成31年3月には、本学の短期留学生がMSUに派遣されることになっており、今回の交流は留学希望者のモチベーション向上にも繋がったようです。



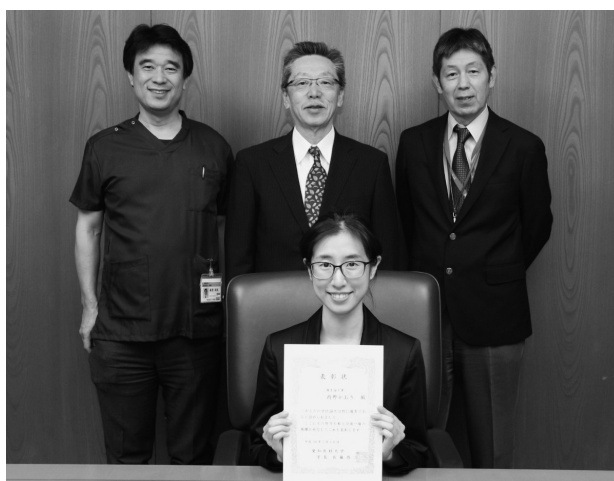
大学院医学研究科学生表彰（優秀論文賞）

大学院医学研究科では、大学院学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、内科学講座（血液内科）の高見昭良教授から、平成29年度早期修了した内野かおり氏（臨床医学系内科学専攻）の学位論文について推薦があり、医学研究科委員会で選考した結果、「優秀論文賞」として表彰されることとなり、平成30年7月26日（木）に佐藤啓二学長から表彰状が授与され、称揚と更なる期待の言葉を掛けられました。

内野氏は、目の前の患者さんを救う情熱や真理への探究心は誰よりも強く、柔軟な発想力と高い問題解決能力を有しています。また、誰にでも公平、誠実、正直で、患者さんや学生、研修医、同僚からも慕われる人柄です。2回の産休を除き、臨床と研究に没頭した結果、造血細胞移植の有効性向上が期待される画期的成果が結実し、3年間で論文を完成させ、非常に評価の高い雑誌（Oncotarget）に掲載されました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。



表彰式での記念撮影
後列 左から高見教授、佐藤学長、若槻医学研究科長
前列 内野氏

看護学研究科公開講義開催

平成30年5月30日（水）・6月12日（火）の2日間にわたり、大学本館2階205講義室において、看護学研究科公開講義が開催されました。

本講義は、看護学研究科高度実践看護師（診療看護師）コースで開講している講義の一部を学内外の方々へ公開することを目的に実施されました。

1回目は、順天堂大学医学部附属静岡病院のフライトナース・診療看護師の多田真也氏をお招きし、「航空医療における診療看護師の活動」というテーマで講演を頂きました。

講師を務めた多田先生は、診療看護師としてフライトナースの実践を行っている第一人者です。講義では、フライトナースの実践にどのように診療看護師の知識・技術を活かしているのかについて、実際の動画を交えながら分かりやすく解説がありました。

2回目は、独立行政法人国立病院機構名古屋医療センターの総合内科診療看護師の薄井美穂氏をお招きし、「救急医療と在宅医療をつなぐ診療看護師の活動」というテーマで講演を頂きました。

講義では、外来及び病棟、ERでの診療看護師の実践について解説があり、病院を訪れる患者さんの救急対応や医学的問題だけでなく、生活状況や家族背景まで捉え、



多田先生



薄井先生

地域で自分らしく生活できるように入院中のみならず外来で継続して支援を行う診療看護師の実践は、地域包括ケアが求められるこれからの日本の新しい医療モデルであると強調されました。

公開講義には、学内関係者だけでなく学外の方にも参加頂き、診療看護師の実践について興味を持って頂く機会になりました。

看護学研究科セミナー開催

平成30年6月30日（土）ウインクあいちにおいて、看護学研究科セミナーが「急性期医療と在宅医療をつなぐ特定行為研修修了者の役割」をメインテーマに2部構成で開催されました。【写真】

第1部は、「急性期医療と在宅医療の現状と課題」についての講演が行われ、三宅養三理事長から超高齢化が進む日本の医療の現状、医学と看護学の視点を持って在宅医療を実践できる診療看護師の必要性について講演がありました。続いて、宮川ホームケアクリニックの宮川尚之院長からは在宅医療に携わっている医師の立場で、これから診療看護師に期待する役割と利用者さんが在宅で生活できる環境整備について講演がありました。

第2部のシンポジウムは、「急性期医療と在宅医療をつなぐ特定行為研修修了者の役割」をテーマに、名古屋医療センター診療看護師の薄井美穂氏から急性期病院から在宅で生活できるよう生活面の情報を丁寧に情報収集し、環境を整備して在宅に送り出している活動紹介がありました。続いて、佐賀関病院診療看護師の谷山尚子氏からは総合診療医と連携し、病院から在宅に向き患者の病状の判断と生活支援についての活動、三重県立一志病院診療看護師の西田安紀子氏からは、訪問看護を通して、病院と在宅まで横断的に患者の病状管理と生活を支援している活動について講演がありました。

その後のディスカッションでは、在宅医療で診療看護



師の活躍が求められているが、診療報酬など制度が追い付いていない現状についての意見交換が行われました。講師を務めた宮川先生からは「今できる小さなことを積み上げて、制度を変える大きな力へ繋げていくことが大切であり、制度がない今だからこそ、住民にとって良いと思うことを新しい発想で実施することができる。」との言葉を頂きました。

地域・在宅医療に携わる診療看護師はまだ少ない現状がありますが、これからの超高齢化社会と2025年問題を抱える日本にとって、診療看護師が日本の医療を変える可能性を感じる事ができたセミナーとなりました。

看護学研究科特別講義開催

平成30年7月14日（土）午後1時30分から大学本館303講義室において、看護学研究科特別講義が開催されました。【写真】

講義には、慶應義塾大学看護医療学部看護学科の戈木クレイグヒル滋子教授をお招きし、「グラウンデッド・セオリー・アプローチ入門」というテーマで講演を頂きました。

連休初日の35度を超える猛暑日にもかかわらず、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）の第一人者である戈木先生の講演が受けられるということで、学内、県内施設の研究者を始め、県外から120名を超える方の参加がありました。

講義では、研究デザインの決定からGTAの特徴、GTAを使うにふさわしい研究について解説があり、看護研究における質的研究の可能性や研究者としての姿勢、看護研究が目指すべきものなど多くの示唆を得ることができました。



その後の質疑応答では、「質的研究を読み進める中でGTAを使った研究を多く目にするが、他の質的研究とどう違うのか分からない。」「GTAを使ってみたが、難しく取り入れることができない。」といった多くの質問が寄せられ、質的研究における具体的なデータ収集や分析についても分かりやすく解説がありました。

貴重なご講演ありがとうございました。

総合学術情報センター eポートフォリオ（Mahara）利用説明会開催

平成30年6月28日（木）・29日（金）の2日間にわたり、マルチメディア教室において、総合学術情報センター主催による「eポートフォリオ（Mahara）利用説明会」が開催されました。

説明会では、同センターの橋本貴宏ICT支援部門長によるeポートフォリオの概要説明に続き、株式会社VERSION2による操作説明が行われ、教員54名、職員21名の計75名の参加がありました。

本学では、教育分野におけるeポートフォリオの利用を推進しており、その一環として学生の学修記録の蓄積や学生と教員とのWeb上でのやり取りによる学修支援を行うために、eポートフォリオシステムを導入しています。eポートフォリオの基本的な機能に加え、アンケートの実施やレーダーチャート等の表示が可能なワークシート機能を備える等、より効果的な教育環境が整っており、今後の授業等において大いに活用が見込まれます。



概要説明をする橋本部門長

今後も、総合学術情報センター（ICT支援部門）では、eポートフォリオのサポートを通じて、全学に利用の普及を行っていきます。



第30回 日本医学会総会 2019 中部

医学と医療の深化と広がり

～健康長寿社会の実現をめざして～

会頭 齋藤 英彦 (名古屋大学名誉教授)

学術
集会

2019年
4月27日(土)～4月29日(月・祝)
名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、ウインクあいち

学術
展示

2019年
4月26日(金)～4月29日(月・祝)
名古屋国際会議場、ポートメッセなごや

市民
展示

2019年
3月30日(土)～4月7日(日)
ポートメッセなごや

医学
史展

2019年
3月2日(土)～4月28日(日)
名古屋大学博物館

分科会応援早割 (事前参加登録)

(対象:医師・歯科医師・研究者)

締切迫る!

締切: 2018年10月31日(水) 正午まで

各種研修制度との連携

NEW

1 日医かかりつけ医機能研修制度応用研修単位
日本医学会総会に出席することにより応用研修の「関連する他の研修会」として2単位が付与されます。

2 産業医・健康スポーツ医研修単位
事前申込のみ(定員制・先着順)(別途5,000円)

3 日本医学会分科会(一部)の研修単位
分科会の認定する専門医制度等について、分科会規定に基づき単位取得が可能です。

公式WEBにて
随時更新中

4 日本医師会生涯教育制度学習単位
受講内容に応じて日本医師会生涯教育制度の単位およびカリキュラムコードの取得が可能です。

詳細は次のページへ▶▶▶

(学会事務局より提供)

分科会応援早割 締切迫る!

2018年10月31日まで
ご登録は今すぐWebで

参加登録料

登録料・期間	事前参加登録期間		
	2018/2/1正午～2019/4/5正午まで	2019/4/27～4/29	
参加登録区分 (区分は、登録時の身分とする)	分科会応援早割※1	事前参加登録	当日参加登録
医師・歯科医師・研究者	25,000円 2018/2/1正午～10/31正午まで	30,000円	35,000円
大学院生(医師・歯科医師)もしくは 卒業5年(2014年3月～2019年3月) までの医師・歯科医師 ※「臨床研修医」の方は「卒業5年 (2014年3月～2019年3月)までの医師・ 歯科医師」の категорияで登録ください	10,000円		15,000円
メディカルスタッフ・病院事務・ 管理関係者・その他医療従事者	5,000円		8,000円
大学院生(医師・歯科医師を除く)	2,000円		3,000円
学部学生※2	無料		
医療情報担当者(MR)・行政・企業	30,000円		35,000円
同伴者(医療従事者以外の家族)※3	3,000円		5,000円

事前参加登録方法

ホームページを
ご覧ください。



<http://isoukai2019.jp/>

医総会 2019

検索

※1:登録時に日本医学会分科会
(日本医学会に加盟する学会)に所属
している方への特別価格です。
日本医学会分科会について
>> <http://jams.med.or.jp/members-s/>
※2:WEBからの事前登録が必要です。
学術講演要旨集は含まれません。
※3:同伴者は、3名まで登録可能です。
学術講演要旨集は含まれません。

特別プログラム演者

2019年 4月27日(土)

会頭講演

医学・医療と生老病死:
不変の精神と技術革新
第30回日本医学会総会 2019 中部
会演
齋藤 英彦



開会講演

健康長寿社会を支えるトランス
フォーマティブエレクトロニクス
名古屋大学教授
2014年ノーベル物理学賞受賞
天野 浩



日本医師会会長講演

日本医師会の医療政策
～健康な社会を作ろう～
日本医師会会長
横倉 義武



日本医学会会長講演

社会と共に進化する医学
日本医学会会長
門田 守人



2019年 4月28日(日)

記念講演

やれる理由こそが着想を生む
～はやぶさ式思考法～
宇宙航空研究開発機構(JAXA)教授
川口 淳一郎



記念講演

野生の思考と未来の人材育成
～ゴリラに学ぶ～
京都大学総長
山極 壽一



特別講演

AMEDのミッション:
グローバルデータシェアリング
日本医療研究開発機構理事長
末松 誠



特別講演

地域包括ケア時代における
医療専門職育成
～専門職としての自律と多職種連携～
日本看護協会会長
福井 トシ子



特別講演

健康長寿の延伸に向けて
～口腔の健康と全身の健康～
日本歯科医師会会長
堀 憲郎



特別講演

ウエルネス6020
～フレイル・ロコモ・認知症対策～
愛知県歯科医師会会長
内堀 典保



特別講演

地域包括ケアにおける薬局薬剤師の役割
～チームで守る安全・安心な薬物治療～
日本薬剤師会会長
山本 信夫



特別講演

病院薬剤師の業務の変遷
～調剤室から病棟へ、
そして地域医療連携へ～
日本病院薬剤師会会長
木平 健治



2019年 4月29日(月・祝)

記念講演

過去と現在を重視し、
今後の震災に備える
名古屋大学減災連携研究センター
センター長/教授
福和 伸夫



閉会講演1

東海道新幹線から超電導リニアへ
東海旅客鉄道株式会社
取締役名誉会長
葛西 敬之



閉会講演2

iPS細胞研究の現状と
医療応用に向けた取り組み
京都大学 iPS細胞研究所所長/教授
2012年ノーベル生理学・医学賞受賞
山中 伸弥



同時開催 第116回日本内科学会総会・講演会

テーマ: 新時代の内科学の創造 ～分化と統合・そして融合へ～

会期: 2019年 4月26日(金)～4月28日(日) 会場: ポートメッセなごや 会長: 長谷川 好規

(名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座 呼吸器内科学 教授)

「第30回日本医学会総会 2019 中部」参加により

総合内科専門医認定更新単位: 10単位、認定内科医認定更新単位: 5単位が取得可能です。

(学会事務局より提供)

D-Call Net本格運用開始

平成30年5月30日（水）本院において、同日からD-Call Netが本格運用されることに伴い、対応車両を用いた模擬事故通報の訓練が行われました。

本システムは、NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」、トヨタ自動車やホンダ自動車、日本緊急通報サービスが開発し、乗用車に搭載された専用の通信機が車に起きた事故の情報を自動的に消防やドクターヘリの基地病院に送信し、過去の事故データを基に開発されたプログラムによって、運転者や同乗者の「死亡・重傷率」を算出し、一定の数値を超えるとドクターヘリに出勤指令が出る仕組みです。

当日の訓練では、事故発生から病院内で情報を受信し、ドクターヘリ出動までの流れについて確認が行われました。

愛知県内におけるシステムの導入は本院が初めてということもあり、多くの報道機関から取材を受けました。救命救急科の武山直志教授からは「事故現場への到着時間の短縮により、1秒でも早く治療を行うことができる。」との言葉があり、同科の寺島嗣明助教から事故発生からドクターヘリ出動までの流れについて分かりやすく解説がありました。



システムへの期待の言葉を話す武山教授



システム対応車両とドクターヘリ

平成30年度第1回保険診療に関する講習会開催

臨床研修病院においては、全職員を対象とした保険診療に関する講習が、年2回以上実施されていることが必須とされており、平成30年6月12日（火）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、平成30年度第1回保険診療に関する講習会が開催されました。

講習会のテーマは、「平成30年度診療報酬改定対応のポイント～愛知医科大学病院はいかに対応するか～」と題し、一般社団法人日本血液製剤機構の谷澤正明氏から解説を頂きました。愛知県内の急性期病院、全国の大学

病院と比較し、DPCデータから見た本院の効率性係数、複雑性係数の立ち位置や疾病占有率について説明があり、現状分析の結果から、本院の方向性や今後のあるべき姿について考えさせられる内容の講演会となりました。

講演会には、医師、コメディカル及び事務職員など幅広い職種から184名の参加があり、医療機関経営における重要性を再認識した講習会でした。



献血ご協力ありがとうございました

平成30年6月19日（火）大学本館1階ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いします。

今回は、平成31年1月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願いします。

夏の団体献血

・献血受付数	・48名
・献血できた方	・42名 (400ml・37名)
・献血できなかった方	・6名

BDLS (Basic Disaster Life Support) 開催

平成30年6月3日(日)に第21回日本臨床救急医学会学術集会のポストコンgressセミナーとして災害医療研究センター主催(後援:愛知県医師会)で、アメリカにおける標準化災害医療教育プログラムであるBasic Disaster Life Support (BDLS) コースを開催いたしました。BDLSは米国救急医学会が災害医療に関与するすべての職種が受講することを推奨しており、これまでに全世界で15万人を越える修了者を輩出しています。

今回、本学職員を含む47人の受講生がコースを修了し

て認定証を手に入れました。2020年に迫った東京オリンピック・パラリンピックにおいては、テロリズム発生の危険が指摘されており、医療従事者は、適切な対応ができるようになるために災害医療について学習する必要があります。

本センターでは、今後も自然災害・テロリズム発生時に被害抑制のための教育機会を提供していく予定です。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

アドラー心理学に学ぶコミュニケーション研修実施

学是「具眼考究」と三つの行動指針「選ばれる医科大学」、「安心・親切・快適」、「自主自立・向上・協調」を踏まえて制定したSD実施に関する基本方針の下、教員を含む全ての教職員を対象にSD研修を実施しています。

平成30年6月中旬に実施した「アドラー心理学に学ぶコミュニケーション研修」には、総勢352名の教職員が参加し、自分や他者に対する勇気づけの方法を学習しました。本研修は3日間にわたって開催され、講義中のペアワークを通して、自身のモチベーションの上げ方、他者への効果的な振る舞いや指導方法に対する理解を深めました。【写真】

受講者からは「勇気づける言葉がけ、チーム医療のすすめ方など、いろいろと役立ちそうです。」(医師)、「新人の子たちは不安なことが多いと思うので、『ヨイ出し』



をして自己肯定感高められるように接しようと思った。」(看護師)、「マイナスに捉えがちだった日常的な出来事をプラスに捉えるだけで、仕事だけでなく人生も豊かになると感じ、とても有意義な研修だった。」(看護師)といった感想がありました。

○「アドラー心理学に学ぶコミュニケーション研修」
日程：6月13日(水)、14日(木)、15日(金)
内容：各日90分の講義を3回、計9セッションを実施

耳鼻咽喉科 西村邦宏講師 第80回耳鼻咽喉科臨床学会総会 Best Poster Award受賞

耳鼻咽喉科の西村邦宏講師が、平成30年6月29日(金)パシフィコ横浜で開催された第80回耳鼻咽喉科臨床学会総会において、Best Poster Awardを受賞しました。

これは、同学会の一般演題(ポスター)で西村講師が発表した「甲状腺視神経症に対する経鼻および経涙丘アプローチによる眼窩内壁減圧術後の視力変化の比較」が研究の新規性と有用性が高く評価され、今後の経鼻内視鏡手術の発展に貢献したとして選定されたものです。

表彰を受けた西村講師から「歴史ある学会で名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。耳鼻咽喉科学講座の植田広海教授、小川徹也教授、眼形成・眼窩・涙道外科柿崎裕彦教授、高橋靖弘准教授を始め、皆さまのご指導の賜物と感謝しております。今後もより一層努力を重ねていきます。」との感想がありました。



学会会場での記念撮影
西村講師(左)と植田教授(右)

優良自動車運転手表彰

毎年春に模範的な運転を行い、交通安全の確保に貢献している方に対し、愛知警察署、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から表彰が行われています。

今年は、医学部教務部長で、外科学講座（血管外科）の石橋宏之教授【写真】が、平成30年5月28日（月）に表彰を受けられました。

この表彰は、学生を指導する立場として自ら安全運転を心掛け、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

石橋教務部長からは、「今後も模範となる安全運転を続けていきます。」との感想がありました。



看護部 黒田幸恵副部長 平成30年度愛知県看護功労者表彰受賞

看護部の黒田幸恵副部長【写真】が愛知県看護功労者表彰を受賞されました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞で、平成30年5月10日（木）ウインクあいちにおいて開催された愛知県看護大会の席上で、表彰式が行われました。

表彰を受けた黒田副部長から「看護師、助産師として40年余り、このような栄誉ある賞を頂き大変光栄であると同時に、諸先輩を始め、同僚や後輩の皆さまのご指導とご協力があったのものと感謝しております。今後も地道ながら、「察知力」と「現場発想」を大切に看護サービスを提供していきたいと思っております。」との感想がありました。



施設・建設室 廣田俊介主査 長久手市危険物安全協会 平成29年度優良会員表彰（個人表彰）受賞

平成30年5月18日（金）尾三消防本部長久手消防署において開催された平成30年度長久手市危険物安全協会定期総会において、施設・建設室の廣田俊介主査【写真】が、長久手市危険物安全協会平成29年度優良会員表彰（個人表彰）を受賞しました。

この賞は、危険物関係施設の管理が優良で他の模範となる事業所、勤務成績が極めて優良な危険物取扱者及び同会に功労のあった者に対して表彰が行われるもので、廣田主査は危険物施設の保守及び工事管理業務に従事し、本学の危険物保安監督者として法を遵守し、勤務態度も極めて優良かつ部下への的確な指導に努めてきたことが評価されたものです。

受賞された廣田主査から「この度は栄誉ある賞を頂き光栄に思っております。これも皆さま方のご指導があったのものと感謝しております。ドクターヘリ格納庫・燃



料庫が運用開始され、本学危険物貯蔵取扱い施設は11施設となり、今後もより一層施設の安全管理に努めて参ります。」との感想がありました。

がんの転移を初期過程と後期過程で阻害する化合物

分子標的医薬寄附講座・教授 梅澤 一夫

がん細胞を死滅させられなくても、転移能を抑制する医薬があったら、がんのイメージはずいぶん変わると思います。そして、転移阻害剤はがん細胞特有の性質を変える薬剤であるから、副作用は少ないと予想されます。そこで私たちの研究室では、転移阻害剤の天然からの探索や分子デザインを行っています。

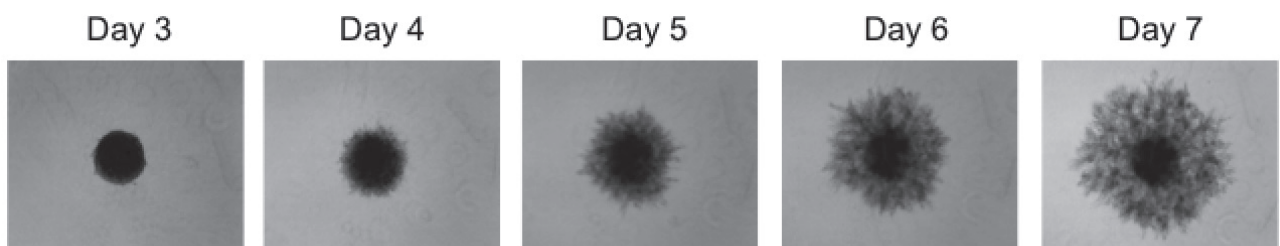
転移の過程は多くの場合、一次腫瘍からの離脱・浸潤、血管やリンパ管による輸送、再び浸潤、そして基底膜などへの接着と二次腫瘍（転移巣）の増殖の各ステップに分けられます。一方、3年ほど前に転移阻害剤探索のため、がん細胞の三次元（3D）浸潤解析法を導入しました。寒天の中にがん細胞をかたまりの状態で培養する方法です。すると、かたまりから徐々に個々のがん細胞が離脱して、寒天の中へ放射状に浸潤しました。下図は、ヒト乳がんMDA-MB-231細胞が、3D浸潤する実際の写真です。

私はこれを見て、いつもイラストで描いている転移の初期過程、つまり一次腫瘍からの離脱・浸潤にそっくりだと思いました。その後、大学院生の研究で、NF- κ B阻害剤DHMEQは毒性を示さない濃度でこの3D浸潤を阻害することが分かりました。この結果は「NF- κ B阻

害剤DHMEQによる転移初期過程モデルとしての乳がん細胞3D浸潤の抑制」というタイトルで英文誌にも発表しました。（BBRC 485: 76-81, 2017）

発表後、いくつかの雑誌社から本研究に関連した内容でレビューでもオリジナルでも投稿してほしいと連絡がありました。以前、共同研究者と一緒に「マウスにおけるDHMEQによる膵がん細胞の肝転移抑制」を発表しており、この研究は、膵がん細胞を門脈から注入するという、まさに転移後期過程を抑える内容でした。そこで、二つを合わせ、表題のようなレビュー論文をつくることにしました。一番熱心だったInternational Journal of Molecular Sciences (IF 3.48) に掲載料が掛かるのかを問い合わせたところ、あなたは引用数が多いから無料でいいと言われたので、投稿に至り、査読があつて最近、掲載されました。（Int. J. Mol. Sci. 2018, 19, 729; doi: 10.3390/ijms19030729）

DHMEQは現在、アトピーとがんを対象に開発が進んでいます。一方、世界的に転移阻害剤の臨床応用は、まだまだ初期過程であり、これから多くの基礎・臨床共同研究が期待されます。



乳がんMDA-MB-231細胞の寒天内三次元培養。

3日目のがん細胞のかたまりから7日目にかけて細胞が徐々に離脱して、周辺に浸潤しています。スケールバーは0.5 mm。

学 術 振 興 学 位 授 与

◆大学院医学研究科



西村 眞樹

学位授与番号 乙第390号

学位授与年月日 平成30年6月14日

論文題目「Clinical significance of serum anti-GM-CSF autoantibody levels in

autoimmune pulmonary alveolar proteinosis (自己免疫性肺胞蛋白症における血清抗GM-CSF自己抗体の臨床的意義)」

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第35回日本産婦人科感染症学会学術集会
- ・第55回名古屋臨床神経病理アカデミー
日本神経病理学会名古屋地方会

【開催日】

- 平成30年5月27日(日)
- 平成30年7月21日(土)

【会長等】

- 三鴨 廣繁
- 吉田 眞理

第35回日本産婦人科感染症学会学術集会

感染症科・教授 三鴨 廣繁

平成30年5月27日(日)岐阜大学サテライトキャンパスにおいて、第35回日本産婦人科感染症学会学術集会を学術集会長として開催させて頂きました。

産婦人科領域の感染症は、性器や骨盤内感染症、性感染症、母子感染、感染性流・早産、感染症に起因する不妊・不育症、周術期感染症、HPV感染症と子宮頸がんなど、感染症領域では特殊性を有する側面があります。本学会が専門家集団として国の施策や関連学会などに発信できる学会として発展していくべく、プログラムを企画させて頂きましたが、学術集会の柱である一般演題は24題頂き、特別講演1題、教育講演9題、シンポジウム3題と合わせて、多くの研究発表と活発で有意義な討論が行われたと確信しております。

学術集会参加者も187名に上り、参加して頂いた先生方からも梅毒、HPVワクチン、早産、母子感染、周術期管理、HIV合併妊娠管理、带状疱疹への対応、薬剤耐性菌への対応など明日からの臨床に有益な情報が得られ



たのお言葉を頂き、主催者である教室員一同安堵しております。

学会開催に当たっては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会を始め、岐阜大学産科婦人科同門会、本院感染症科及び感染制御部、各種企業からのご支援並びに労務提供を頂きましたことに衷心からお礼を申し上げます。

第55回名古屋臨床神経病理アカデミー 日本神経病理学会名古屋地方会

加齢医科学研究所・教授 吉田 眞理

平成30年7月21日(土)本学シミュレーションセンターにおいて、第55回名古屋臨床神経病理アカデミー・日本神経病理学会名古屋地方会を開催しました。

本会は、神経内科、精神科、脳神経外科、老年科、病理診断科、神経放射線科などの方々が参加する学際的な会で、神経内科と精神科の交流を伝統としてきました。剖検や生検の脳・脊髄などの病理標本を実際に顕微鏡で観察し、神経放射線科専門医の画像所見のコメントを交えて、臨床病理所見を検討しました。ランチョンセミナー

として「進行性多巣性白質脳症(PML)」を企画し、PML関連の3演題を含む全11題の演題、57名のご参加を頂き、活発な討論がなされました。

本会を愛知医科大学で開催するのは今回が初めてで、会場(シミュレーションセンター)の準備設営などはスタッフ総出で行いました。

ご支援を頂きました一般財団法人愛知医科大学愛恵会に、この場を借りて御礼申し上げます。

研究助成等採択者

○公益財団法人三菱財団

第49回三菱財団自然科学研究助成

氏名 牛田享宏（学際的痛みセンター・教授）
 研究題目 痛みの発生機序の神経化学的解明及びこれに基づく変形性関節症・脊椎症の革新的強力集束超音波治療法の実現
 助成金額 5,000,000円

○公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金

平成30年度研究助成金

氏名 伊藤清顕（内科学講座（肝胆腸内科）・教授（特任））
 研究題目 胆汁酸誘導体によるB型肝炎ウイルスに対する新規抗ウイルス剤の開発
 助成金額 1,000,000円

○公益財団法人東洋医学研究財団

平成30年度研究助成金

氏名 内藤宗和（解剖学講座・教授）
 研究題目 末梢の微小循環障害による諸症状のメカニズムの解明および鍼灸治療の試み
 助成金額 400,000円

平成30年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

平成30年度厚生労働科学研究費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究事業名	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	三 嶋 廣 繁 医 学 部 感染症科, 教授	6,939	1,561	性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究
地域医療基盤開発推進研究事業	宮 田 靖 志 医 学 部 地域医療教育学専攻講座, 教授 (特任)	2,100	630	大規模データを用いた, 地域の医療従事者確保対策に関する研究

平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金交付決定

平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究事業名	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
慢性の痛み政策研究事業	牛 田 享 宏 医 学 部 学際的痛みセンター, 教授	44,000	6,000	慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究

- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付申請書」を基に作成

**平成30年度科学研究費助成事業
(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定**

平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	岩瀬 敏 医学部 生理学, 教授(特任)	(繰越)	0	自律神経系変容と宇宙デコンディショニングへの影響および 対抗措置の研究
〃	武内 恒成 医学部 生物学, 教授	2,700 (継続)	810	細胞外環境制御による脳・脊髄損傷後の再生治療とその機能 回路回復
〃	岡田 洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	1,700 (継続)	510	iPS細胞由来ニューロンでみられる異常タンパク凝集に依存 しない早期病態の解明
基盤研究(B) (補助金)	中野 隆 医学部 解剖学, 教授	1,400 (継続)	420	フィジカルアセスメントに繋がる総合的解剖学実習モデルの 構築を目指して
〃	小林 孝彰 医学部 外科学(腎移植外科), 教授	3,300 (継続)	990	移植腎グラフトの長期生着をめざした慢性拒絶反応に対する 予防・先制医療の導入
〃	菊地 正悟 医学部 公衆衛生学, 教授	4,200 (継続)	1,260	腸肝型ヘリコバクター感染と胆道がん・膵がんリスク
〃	内藤 宗和 医学部 解剖学, 教授	3,000 (継続)	900	高圧メディカルガスを用いた新しい臓器保存法の確立
〃	都築 忍 医学部 生化学, 教授(特任)	6,800	2,040	ALL特異的融合遺伝子のin vivo機能解析から見た白血病多段 階発癌機構の解明
〃	渡辺 秀人 分子医科学研究所 教授	5,000	1,500	病態の組織破壊・修復を制御する細胞外プロテオグリカンの 代謝と分解産物の新規機能
若手研究(A) (補助金)	伴野 勸 医学部 感染・免疫学, 助教	3,200 (継続)	960	新たな機能性脂肪酸~奇数鎖脂肪酸~の抗炎症作用機序の解 明
研究活動 スタート支援 (補助金)	鬼無 洋 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 講師	1,000 (継続)	300	腹膜リンパ管新生におけるCTGFの役割
基盤研究(C) 一般(基金)	久留 友紀子 医学部 外国語, 准教授	(延長)	0	社会的コンテキストの中にあるEFLライティング・タスクの 開発
〃	佐藤 純 客員 教授	(延長)	0	気象病発症メカニズムにおける気圧感受機構の解明—動物実 験と臨床実験の連携研究—
〃	梅村 朋弘 医学部 衛生学, 講師	(延長)	0	バングラデシュ南部デルタ地帯における塩害に関する調査
〃	勝野 敬之 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 講師	(延長)	0	卵膜由来間葉系幹細胞を用いた腎疾患治療
〃	伊藤 恭彦 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	(延長)	0	腎疾患領域におけるリンパ管新生の観点からの病態解明とそ の治療戦略
〃	宮原 弘明 加齢医科学研究所 講師	(延長)	0	Leigh脳症におけるミトコンドリア選択的オートファジー活 性の検討と治療応用
〃	谷川 徹 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授	(延長)	0	新規アディポサイトカイン「オメンチン」の加齢性難聴にお ける役割

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	瓶井資弘 医学部 眼科学, 教授	(延長)	0	活性型プロテインCによる網膜再灌流メカニズムの解明
〃	白井裕子 看護学 在宅看護学, 講師	(延長)	0	野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援
〃	宮本淳 医学部 心理学, 准教授	400 (継続)	120	剽窃を予防する教育実践効果の分析: コピペ依存からの脱却をはかるプロセス介入教育
〃	仙石昌也 医学部 物理学, 准教授	400 (継続)	120	クラウドを利用した協働学習によるレポート作成過程の分析とその教育効果
〃	大道裕介 医学部 解剖学, 講師	1,000 (継続)	300	慢性痛を防ぐ集学的治療の基盤開発—理学療法における精神薬物療法の併用法の検討—
〃	山森孝彦 医学部 外国語, 教授	800 (継続)	240	医学部低中学年を対象とした英語医療面接指導のための評価ルーブリックの開発
〃	稲垣秀晃 客員研究員	1,100 (継続)	330	超音波とフェロモンを評価に加えた実験動物におけるより精度の高い愛護と福祉の確立
〃	久保昭仁 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー・内科), 教授(特任)	800 (継続)	240	ゲノムワイド解析による進行肺がんの治療実現へ向けた基盤研究
〃	佐藤元彦 医学部 生理学, 教授	1,200 (継続)	360	G蛋白活性調節因子による血管形成制御機構の解析
〃	増淵悟 医学部 生理学, 教授	700 (継続)	210	時間治療のための腫瘍内低酸素と生物時計の相互作用の解明
〃	林寿来 医学部 生理学, 講師	900 (継続)	270	新規VEGF受容体結合因子に基づく血管新生制御法の検討
〃	安井正佐也 医学部 解剖学, 助教	1,100 (継続)	330	機能的な身体症候群にみられる病的疼痛と疲労の発症メカニズムの解析
〃	羽淵脩躬 客員教授	900 (継続)	270	炎症・疼痛制御における肥満細胞、マクロファージ高硫酸化プロテオグリカンの機能解明
〃	平井宗一 医学部 解剖学, 教授(特任)	1,000 (継続)	300	睡眠時無呼吸症候群の呼吸異常における硫化水素・セロトニンの関与に関する研究
〃	山口奈緒子 医学部 薬理学, 准教授	1,100 (継続)	330	ストレス応答調節におけるネガティブ・フィードバック破綻の機序の解明
〃	伊藤清顕 医学部 内科学(肝胆腸内科), 教授(特任)	1,200 (継続)	360	B型肝炎における遺伝子型分布の変遷および分子生物学的検討
〃	中尾春壽 医学部 内科学(肝胆腸内科), 教授(特任)	1,300 (継続)	390	内在性遺伝子ターゲティング法を用いた肝臓におけるp53アイソフォームの機能解析
〃	伊藤理 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー・内科), 教授	500 (継続)	150	基質硬度に起因する肺および気道リモデリング制御機構と細胞基質力学検知機構の解明
〃	恒川新部 医学部 糖尿病内科, 准教授	800 (継続)	240	糖尿病における歯髄幹細胞を利用した膵島移植の向上
〃	中村二郎 医学部 内科学(糖尿病内科), 教授	800 (継続)	240	シュワン細胞の神経終末誘引・保護作用の糖尿病多発神経障害に対する有益性の検討
〃	森島泰雄 客員教授	1,100 (継続)	330	国際共同HLA研究による移植片対宿主病と移植片対白血病反応機序の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	西原真理 医学部 学際的痛みセンター教授(特任)	500 (継続)	150	感覚過敏に対する新しい治療法の開発
〃	鈴木耕次郎 医学部 放射線医学, 教授	700 (継続)	210	マルチパラメトリック画像による胆管癌の時空間的予後決定因子解析
〃	安藤孝人 医学部 乳腺・内分泌外科, 助教	100 (継続)	30	画像融合技術を用いた超音波装置による乳癌乳房温存手術支援システムの開発
〃	中野正吾 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授	100 (継続)	30	磁気ナビゲーションによる乳腺MRI検出病変の超音波ガイド下生検支援システムの開発
〃	三輪祐子 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 助教	1,000 (継続)	300	ABO血液型不適合腎移植における免疫学的リスク・ベネフィット解析と抗体治療の開発
〃	風岡宜暁 医学部 歯科口腔外科, 教授	1,200 (継続)	360	高解像度アレイCGH法によるエナメル上皮腫のゲノム診断及び分子標的薬の開発
〃	森莉那 看護学部 成人看護学, 講師	800 (継続)	240	成人期がん患者の療養と社会生活の両立を支援するソフトウェア開発と運用可能性の検討
〃	山本弘江 看護学部 母性看護学, 准教授	900 (継続)	270	乳児をもつ夫婦の産後うつの実態と家族を支える地域連携モデルの開発
〃	小島徳子 看護学部 母性看護学, 助教	700 (継続)	210	NICU入院児を持つ褥婦への足湯による乳頭・乳輪の状態の定量化と搾乳に及ぼす効果
〃	坂本真理子 看護学部 地域看護学, 教授	1,600 (継続)	480	多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブックの開発
〃	内田育恵 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授(特任)	500 (継続)	150	聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認知症ケアの在り方に関する検討
〃	大道美香 医学部 解剖学, 助教	900 (継続)	270	習慣的運動による慢性痛予防機序の基礎的解明
〃	松永昌宏 医学部 衛生学, 講師	800 (継続)	240	ソーシャル・キャピタルと心身の健康との関連に関する社会神経科学的研究
〃	犬飼洋子 医学部 生理学, 講師	200 (継続)	60	辛味性(口腔内TRPV1活性化)発汗による選択的脳冷却の検討: 熱中症予防への応用
〃	梅澤一夫 医学部 分子標的医薬寄附講座, 教授	1,200 (継続)	360	三次元培養がん細胞の浸潤を阻害する微生物由来生理活性物質の探索
〃	小西裕之 医学部 生化学, 教授(特任)	1,200 (継続)	360	CRISPR-Cas9 nickaseによるDNA二重鎖切断を伴わないゲノム編集
〃	杉浦信夫 分子医科学研究所 准教授	1,300 (継続)	390	酵素合成コンドロイチン硫酸のナノ粒子複合体の調製と, CS受容体の探索と機能解析
〃	山村彩 医学部 生理学, 助教	1,100 (継続)	330	カルシウム感受性受容体を創薬標的とした新規肺高血圧症治療薬の探索
〃	駒田致和 医学部 薬理学, 講師	1,400 (継続)	420	脳構築におけるミクログリアの変遷機序とその意義の解明
〃	加塩麻紀子 医学部 生理学, 講師	1,300 (継続)	390	CALHMチャネル極性ソーティングの分子基盤の解明
〃	稲熊真悟 医学部 病理学, 講師	1,200 (継続)	360	膝癌細胞におけるPD-L1発現と腫瘍幹細胞性・上皮間葉転換による悪性形質の解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	小松孝行 医学部 感染・免疫学, 准教授	1,000 (継続)	300	パラミクソウイルスV蛋白質のインフラマソーム抑制能は病原性発現に重要か?
〃	乾 巨 範 医学部 感染・免疫学, 講師	1,200 (継続)	360	小胞体膜分子Nogoによる病原性自己抗体産生の新たな制御機構の解明
〃	林 櫻 松 医学部 公衆衛生学, 教授(特任)	1,300 (継続)	390	糖尿病と膵がんに関する分子遺伝疫学的解析
〃	奥田真珠美 医学部 小児科学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	胃癌予防のための中学・高校生ピロリ菌検診と除菌治療: 実施方法の検討
〃	岡田尚志郎 医学部 薬理学, 教授	1,400 (継続)	420	室傍核におけるノルアドレナリン神経系-CRF関連はストレス反応持続に関与するか?
〃	中出幸臣 医学部 肝胆腸内科, 准教授(特任)	1,300 (継続)	390	迷走神経に着目したNASH病態の解明と治療応用
〃	神谷英紀 医学部 内科学(糖尿病内科), 准教授	1,400 (継続)	420	体性幹細胞とその分泌因子を用いた世界初の糖尿病性神経障害治療法の開発
〃	中山享之部 医学部 中央臨床検査部, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	白血病幹細胞を保護する骨髄細動脈ニッチ: その制御機構の解明
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学, 講師	1,100 (継続)	330	グリアに着目した急性脳炎・脳症の病態解明と新規治療法の開発
〃	山田恭聖 医学部 周産期母子医療センター, 教授(特任)	1,400 (継続)	420	新生児期痛みストレスによる自閉症スペクトラム障害を阻止する内分泌機能保護療法
〃	矢野智紀 医学部 外科学(呼吸器外科), 教授(特任)	1,000 (継続)	300	女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響: 新たな肺癌治療法の確立を目指して
〃	大須賀浩二 医学部 脳神経外科学, 教授(特任)	1,200 (継続)	360	慢性硬膜下血腫被膜への好酸球誘導因子の解明と新たな治療法の確立
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	1,400 (継続)	420	新規バイオマテリアルを用いた脊髄損傷治療の可能性-細胞外環境操作と炎症制御解析-
〃	藤原祥裕 医学部 麻酔科学, 教授	1,100 (継続)	330	局所麻酔薬の神経細胞毒性においてT型カルシウムチャンネルが果たす役割の解明
〃	住友誠 医学部 泌尿器科学, 教授	1,300 (継続)	390	アミノ酸代謝リプログラミング機構に着目した前立腺癌に対する新規診断・治療法の確立
〃	岩崎研太郎 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 准教授	1,100 (継続)	330	T細胞亜集団の偏りを生むHLA・A/B抗体と内皮細胞応答: 抗体陽性移植の新機軸
〃	吉川和宏 研究創出支援センター 特務教授	1,200 (継続)	360	子宮頸がんを発生させるHPVのE7蛋白を標的とした細胞内分子標的療法の開発
〃	若槻明彦 医学部 産婦人科学, 教授	1,100 (継続)	330	子宮内膜症女性の心血管疾患発症予防のための新しいホルモン療法の開発
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	頭頸部がん治療における新たな免疫化学療法の開発-CTLと抗がん薬併用の意義
〃	加納秀記 医学部 救急診療部, 教授(特任)	1,200 (継続)	360	ICU関連筋力低下における骨格筋前駆細胞の動態解析: 間葉系幹細胞移植療法の応用
〃	出原弥和 看護学 基礎看護学Ⅱ, 准教授	400 (継続)	120	多職種連携カンファレンスに必要とされる看護師の能力と基礎看護教育の役割の明確化

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	鈴木将之部 医学部 先端レーザー医学室副講座, 准教授	1,500	450	時間伸張フーリエ分光による広帯域光パルス形成機構理解の開拓
〃	佐藤麻紀部 医学部 IR室, 講師	1,300	390	小児におけるLED光暴露がホルモンリズムおよび時計遺伝子の発現に及ぼす影響
〃	小松紘司部 医学部 生理学, 講師	1,400	420	卵胞発育制御機構の解明と原始卵胞のin vivo activation法の開発
〃	村上秀樹部 医学部 病理学, 准教授	1,700	510	メラノーマにおけるがん遺伝子産物MITFのSUMO化機構の解明と標的治療への応用
〃	金尾健人部 医学部 泌尿器科学, 講師	1,100	330	前立腺癌のリンパ節前転移ニッチ形成に関与するmicroRNAの探索
〃	鈴木進 研究創出支援センター 准教授	1,100	330	がん免疫抑制環境の改善に基づく新たながん免疫療法の開発に向けた基礎的研究
〃	丹羽淳一部 医学部 内科学(神経内科), 准教授	1,400	420	疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発
〃	垣田博樹部 医学部 周産期母子医療センター, 講師	1,200	360	新生児低酸素性虚血性脳症に対するグリア由来脳内微小環境改善による新規低体温療法
〃	奥村彰久部 医学部 小児科学, 教授	1,100	330	MERS-異常言動スペクトラムの分子生物学的基盤の解明
〃	伊藤恭彦部 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	1,200	360	腹膜透析における除水不全, 腹膜機能障害の病態解明と新たな治療戦略
〃	太田明伸部 医学部 生化学, 講師	1,200	360	PBKが骨髄腫の悪性化に寄与する作用機序の解明と治療標的分子としての可能性の検討
〃	高見昭良部 医学部 内科学(血液内科), 教授	1,700	510	造血細胞移植関連遺伝子多型機能に基づく免疫制御性マイクロRNAの探索
〃	野田貴幸部 薬学部 薬剤師	1,400	420	ドナー特異的抗体(DSA)制御に向けたHLA産生B細胞への多角的アプローチ
〃	新井健一部 医学部 運動療育センター, 准教授	900	270	腸内細菌叢の痛みの認知や調節機能におよぼすメカニズム
〃	藤田義人部 医学部 麻酔科学, 教授(特任)	1,400	420	RNA iを用いた脳水チャネル機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用
〃	武山直志部 医学部 救命救急科, 教授	2,000	600	多発外傷時における白血球遺伝子発現プロファイル解析:T-iPS細胞療法への応用
〃	津田雅庸部 医学部 救命救急科, 教授(特任)	1,800	540	敗血症におけるInnate Lymphoid Cellの機能解析
〃	宮地茂部 医学部 脳血管内治療センター, 教授	1,300	390	脳血管内治療支援ロボットの開発
〃	若尾典充部 医学部 脊椎脊髄センター, 講師	1,300	390	分子機構と臨床情報の統合型データベースに基づく癌骨転移テーラーメイド治療指針策定
〃	梅村朋弘部 医学部 衛生学, 講師	1,900	570	南アジアにおける大気汚染と健康障害:都市と農村の比較およびマスク介入の効果
〃	鈴木孝太部 医学部 衛生学, 教授	1,100	330	胎児期からのライフコースを考慮した, 生活習慣病発症に関わる要因の疫学的検討

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究 (C) 一般 (基金)	佐藤 ゆか 看護学 教授 感染看護学	700	210	抗微生物薬物療法に関する看護実践と看護継続教育の全国実態調査
〃	山幡 朗子 看護学 准教授 基礎看護学	1,000	300	過敏性腸症候群患者に対する生活習慣改善を促す看護援助プログラム作成に関する研究
〃	荻野 朋子 看護学 准教授 老年看護学	2,400	720	写真療法が軽度から中等度の認知症高齢者のQOLに及ぼす効果に関する研究
〃	阿部 恵子 看護学 教授 クリティカルケア看護学	1,300	390	4年間の地域包括的ケア体験学習プログラムの構築と看護OSCEによる評価
〃	前田 圭介 医学 部 緩和ケアセンター、講師	1,200	360	サルコペニアの摂食嚥下障害の診断、有病率、リスク因子に関する研究
〃	青野 修一 医学 部 疼痛アークマネジメント看護学、講師	1,800	540	質問紙への回答に対する信頼度評価法の開発と疼痛問診システムへの応用
挑戦的萌芽研究 (基金)	浅野 いずみ 看護学 助教 地域看護学	500 (継続)	150	発達障害を疑われた外国人未就学児と親のための療育支援モデルの検討
挑戦的研究 (萌芽) (基金)	岡田 洋平 医学 部 内科学 (神経内科)、准教授 (特任)	2,000 (継続)	600	CAGリポート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の開発
〃	小林 孝彰 医学 部 外科学 (腎移植外科)、教授	2,700 (※)	810 (※)	腎移植における精密医療の導入：TCR/BCR 制御によるHLAミスマッチの克服
若手研究 (B) (基金)	岩味 健一郎 医学 部 脳神経外科、講師	(延長)	0	新たな髄膜腫細胞株・動物モデルの樹立と髄膜腫に対する新規薬剤治療法の評価
〃	三善 郁代 看護学 講師 基礎看護学	(延長)	0	経管栄養関連器材における衛生管理方法の調査～ガイドライン作成に向けて～
〃	岩山 秀之 医学 部 小児科学、講師	(延長)	0	MCT8異常症の新規診断法の開発と神経障害モデル動物を用いた遺伝子治療の有効性
〃	竹下 覚 医学 部 周産期母子医療センター、助教	(延長)	0	トロンボポエチンに注目した新生児血小板減少症の機序解明とその新規治療法
〃	新海 宏明 客員 研究員	(延長)	0	多能性幹細胞由来運動神経細胞を用いた神経再支配による麻痺筋の新規治療戦略
〃	白木 幸彦 医学 部 眼科学、助教	(延長)	0	網膜血行再建の機序解明と臨床応用
〃	伊藤 秀明 医学 部 病理学、助教	800 (継続)	240	ヘッジホッグ関連因子STILによる浸潤突起を介した膀胱癌浸潤機構の解明
〃	谷口 千枝 看護学 講師 成人看護学	1,000 (継続)	300	看護介入における、より簡便で実用的なタバコ渴望感尺度の開発と妥当性の検討
〃	武藤 太一朗 医学 部 小児科、講師	1,000 (継続)	300	乳児アレルギーの発症とアレルギーマーチに関わる胎内環境と発症予測マーカーの研究
〃	パラジュリビージェイ 医学 部 薬理学、助教	800 (継続)	240	「ヒト化マウス」を用いたヒトミクログリアの脳機能制御に関する研究
〃	池上 啓介 医学 部 生理学、助教	1,300 (継続)	390	哺乳類網膜におけるゲートの分子機構と活動リズムの位相反応への作用解析
〃	高間 寛之 医学 部 皮膚科学、講師	1,600 (継続)	480	尋常性乾癬に対するEGFR阻害薬を用いた新規外用療法の開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究(B) (基金)	小林郁生 医学部 泌尿器科学, 助教	900 (継続)	270	腎癌細胞におけるArtemisinin誘導体の抗腫瘍作用の検討
〃	坪井孝太郎 医学部 眼科学, 助教	1,500 (継続)	450	毛様体解離による眼圧コントロール
〃	丸地佑樹 医学部 救命救急科, 助教(医員助教)	900 (継続)	270	敗血症性獲得免疫障害:T細胞受容体遺伝子分析によるレパトア形成能の解析
〃	大野隆之 医学部 歯科口腔外科, 講師	1,800 (継続)	540	CDDP,ATO併用による口腔癌抗腫瘍効果の分子基盤解析及び効率的化学療法の開発
〃	古橋明文 医学部 歯科口腔外科, 講師	500 (継続)	150	閉塞性睡眠時無呼吸における新たなスクリーニング検査法の開発
〃	河村諒 看護学部 成人看護学, 助教	400 (継続)	120	広域避難した高齢被災者に対する継続支援の実態と生活再建支援モデルの構築
〃	黒澤昌洋 看護学部 クリティカルケア看護学, 講師	500 (継続)	150	看護師特定行為研修(区分別科目)の教育システム開発に関する研究
〃	林文子 看護学部 母性看護学, 助教	800 (継続)	240	妊娠糖尿病の発症予防を目的とした妊婦の身体活動支援プログラムの構築
若手研究 (基金)	兵頭寿典 医学部 生化学, 助教	1,000	300	新たな分裂制御機構である収縮環における収縮「速度」制御の機能解析
〃	佐藤啓 医学部 病理診断科, 助教	2,300	690	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の発生機構および臨床病理学的特徴の解明
〃	井戸美来 医学部 乳腺・内分泌外科, 助教(医員助教)	1,200	360	網羅的遺伝子解析から抽出した遺伝子産物を指標とする乳癌細分類の試み
〃	伊藤卓治 医学部 内科学講座(神経内科), 特別研究助教	1,600	480	疾患iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経・筋相互作用分子基盤の解明
〃	竹内伸行 医学部 精神神経科, 助教(医員助教)	2,200	660	大脳皮質内における痛覚抑制の検出
〃	岩山秀之 医学部 小児科学講座, 講師	1,000	300	MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発, および発達遅滞児を対象とした大規模解析
〃	矢倉富子 医学部 解剖学, 助教	700	210	高圧メディカルガスによる血小板保存効果の検証
〃	山岸由佳 医学部 感染症科, 教授(特任)	1,300	390	腔内マイクロビオータ解析に基づく女性生殖器感染症に対するテララーメイド治療法の開発
〃	姫野龍仁 医学部 内科学(糖尿病内科), 講師	900	270	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関を介した再生機構の意義
〃	森島達観 医学部 整形外科, 講師	1,500	450	最小侵襲手術に対応可能なセメントステムの有限要素モデルを用いた開発
〃	渡邊将人 医学部 泌尿器科, 助教	700	210	CCR4陽性Tregに着目した前立腺癌に対する免疫治療確立に関する研究
〃	山中真 看護学部 クリティカルケア看護学, 准教授	2,000	600	高度実践看護師の実践技術の可視化
奨励研究 (補助金)	高四強 輸血部 臨床検査技師	530	0	安全な臍帯血移植に向けた基礎研究: 臍帯血に含まれる間葉系幹細胞の量的質的検証

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
奨励研究 (補助金)	下 和 弘 リハビリテーション部 理学療法士	500	0	resting state fMRIを用いた難治性慢性痛患者の中枢機能評価
〃	林 和 寛 リハビリテーション部 理学療法士	500	0	視線動向の教示が動作観察能力に及ぼす効果の検証

※挑戦的研究（萌芽）のうち今年度新規採択分は交付決定前のため交付内定情報を記載

- ・研究種目及び課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・平成30年7月までの転入転出を含む
- ・基金については、今年度請求額を記載

😊Smile ～スマイル～😊 ～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組みなどについて紹介いたします。

看護学部 老年看護学領域

老年看護学領域は、4名の教員で構成しています。担当する看護専門科目は、「老年看護学概論」、「老年看護学援助論」、「老年看護学実習Ⅰ」、「老年看護学実習Ⅱ」です。

老年看護の対象は、介護予防に取り組みながら、あるいは介護サービスを利用しながら地域で生活する高齢者から病院や介護施設に入院・入所している人々とその家族です。対象の健康レベルは幅広く、様々な環境で生活しているため、臨地実習は入院・入所・通所施設及び地域で行います。

超高齢社会を生きる学生ですが、高齢者と向き合う経験は少なく、授業は対象理解のために身近な高齢者との対話から始め、講義・演習を通じて修得した知識や看護技術を臨地実習での実践へ繋ぐ教育をしています。演習や学内実習では、シミュレーション教育を取り入れ、個別性の高い高齢者への多様な援助について学習を深める



とともに、臨地実習では、長い人生の歴史を持ちつつ今を生きる老年期の人々の健康と生活への支援を実践し、多職種協働の場における看護の役割を学びます。

研究活動としては、介護施設におけるコミュニケーションロボットの活用、認知症の非薬物療法、医療・看護・介護サービス、老年看護学における学生の教育方法などのテーマに取り組んでいます。

グローバルスタンダードな医師育成を目指す循環器内科

内科学講座（循環器内科）・教授 天野 哲也

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

医学教育は日本でも注目されており、愛知医科大学でも大幅な改革が始まりました。循環器内科は、その先鋒として改革を始めています。

循環器内科では、本学からグローバルな感覚と能力を備えた卒業生を世に送り出すための教育改革を目指します。そのために医学教育を通して、人間性豊かな人格形成と人類の進歩に貢献できる意欲と才能を養うことを目指し、医師としての基本を身につけさせることを教育方針とします。

学習プログラム内容に関しては、学習者中心の教育プログラムを構築します。そのため、まずは教育の結果である輩出される人材像としてのアウトカムを定義し、そこからカリキュラムを設計していく、目標からさかのぼるカリキュラム設計を行います。

学生をどのような医師として育て上げたいかについては、人を尊重し、豊かな愛情を持って対応できる能力、医療を円滑に行うためのコミュニケーション能力を持つようにさせ、また、当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力、問題を解決するための能力、論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力、自主的、継続的に学習する能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進めまとめる能力、チームで仕事をするための能力を習得させられるようにしたいです。そのためにアクティブラーニングを導入し、参加型少人数教育、体験実習、診療参加型実習を実施し、学生の症例発表会を開催しています。

【世界に発信する医学研究】

循環器内科での医学研究は、臨床研究を中心に行っております。ご存知のとおり、心臓死は日本人の死因の第2位であり、加齢とともに多くの方が罹患する疾患であります。これからやってくる超高齢化社会に加えて、近年の食生活の欧米化により、虚血性心疾患を始めとした心臓病は今後爆発的に増加してくることが予測されています。一方で、虚血性心疾患の発症メカニズムや予防対策は、現在十分な解明がされていません。

我々のグループでは、これまで心筋虚血評価や冠動脈

内血管イメージングを中心に研究を行い、国際学会での報告と論文化により多くの実績を残してきました。それらの成果が評価され、現在では多くの国際的な大規模多施設臨床研究に日本からの代表施設として参加することができています。

「DEFINE-FLAIR trial」は、冠動脈血行再建術施行1年後の主要有害心血管イベントの発生率において、iFRガイド治療はFFRガイド治療に対し非劣性という仮説を検証した試験であり、New England Journal of Medicine誌に報告しております。また「ADVANCE registry」では、安定した症候性の冠動脈疾患患者において、FFRCTガイド評価の有用性、臨床転帰、データの活用性を検証した試験であり、循環器領域のTop journalであるEuropean Heart Journal誌に報告しました。いずれもガイドラインの作成に影響を及ぼす革新的な試験であり、他にも現在進行中の様々な国際研究に関わり、循環器疾患患者の予後改善に向けて取り組んでおります。我々のグループが掲げる研究に対する理念は、決して個人的な業績を上げて他者の評価を得ることではなく、「循環器疾患の発症予防や予後改善に向けて真実を追求し、世の中に還元すること」であります。今後も引き続き、この理念に基づいた価値のある研究を続けて参りたいと思います。

【講座からの一言】

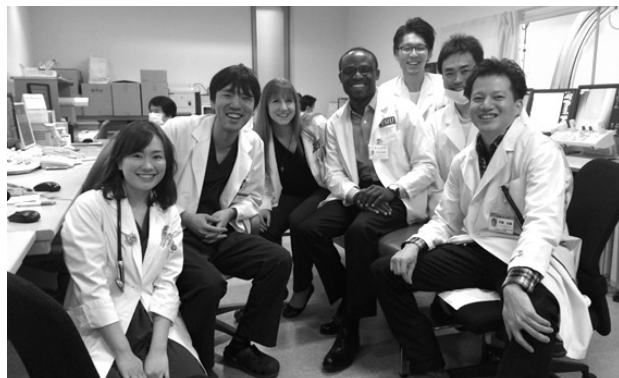
内科学講座（循環器内科）では、最先端の実臨床に携わりながら、そこから生まれる疑問点や仮説を臨床研究に発展させ、臨床のためとなる臨床研究を行っています。また、臨床研究以外にも、関連施設との他施設共同研究や新規治療の開発を目指した治験等の臨床試験へも参加しています。

若手医師時代にこうした環境下で研鑽することにより、普段からresearch mindを持って診療に当たり、そこから新しい治療を見出し、実臨床へ還元していくような医師になってもらいたいと考えています。

今後ともご支援ご鞭撻を頂きますよう、よろしく願いいたします。



心臓カテーテル研修施設での研修医による修練風景



国際交流による教育体制のグローバル化

医学教育の不易流行とは

内科学講座（呼吸器アレルギー内科）・教授 山口 悦郎

【医学教育改革の流れと当科の実践】

最近のわが国の医学教育の変化を見ると、平成23年に文部科学省から診療参加型臨床実習の充実に向けて提言が出され、本学ではクリニカルクラークシップの充実が図られました。平成28年には、医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版が出され、9項目のコンピテンシーが提起されました。それを受けて、本学も独自の構成と解釈の下、五つのコンピテンシと47のコンピテンシーを策定しました。また、三宅養三理事長により学是として「具眼考究」が定められ、高い教育理念を謳っています。

一方、2010年に米国ECFMGは、2023年以降米国医師免許取得の第一段階であるUSMLEの受験に際し、アメリカ医科大学協会（AAMC）または世界医学教育連盟（WFME,WHOの下部組織）の基準により認証を受けた医学部卒業生以外の受験を認めないことを発表しました。そのため、評価と認証を実際に行う日本の組織として、日本医学教育評価機構（JACME）が設立されました。現在本学でも、JACMEによる認証を受けるべく、精力的に自己点検報告書の作成が進められています。

このような一連の国際標準に対応した医学教育改革の骨子をまとめると、第一に診療参加型実習の強化、第二にカリキュラムの前倒しによる在学中の診療能力の早期習得、第三に教育学の概念と手法の導入、第四に前項と関連した不断の教育プログラムの点検と改良作業の継続などが挙げられます。これらの改革は、今日いずれもあるべき方向であり、当科でも鋭意対応すべく実習プログラムの見直しを図っております。しかし、患者さんを診る基本的姿勢と手法は、今も昔も何も変わることがありません。定型的でありながら鑑別診断を意識した詳細な問診、丁寧な診察、鑑別診断の列举とそのための検査計画など、いわば凡事徹底が基本として、臨床推論を展開することを意識しています。また、症例提示の最後には、必ず患者さんの心理状態がどうであるかを問い、教育理念の「情緒と品格を兼ね備えた医療人の育成」の一助としています。一方で学生が興味を持って担当症例の診療に当たることができるよう、指導医は病棟、外来、検査、カンファレンスなどでの積極的な関わりの中で、呼吸器病学の魅力を伝えるよう努力しています。

【研究活動】

呼吸器は、呼吸運動と肺循環によって伸展刺激や気流、血流によるずり応力など様々な種類のメカニカルストレスに晒されています。これらメカニカルストレスは、ガス交換など呼吸機能の恒常性の維持や胎生期、新生児期から成長期に至る間の呼吸器系の形成・発達・分化に必須である一方、過剰なメカニカルストレスは疾患の発症や病態の悪化に関与すると考えられます。メカニカルストレスが呼吸器細胞機能にどのような影響を与え、どのような機序で呼吸器疾患病態に関与するかをテーマとした「呼吸器メカノバイオロジー研究」を行っています。

肺がんを代表とする胸部悪性腫瘍に関する臨床研究では、様々な抗がん剤を用いた多施設共同臨床試験、新薬の開発治験を通じて新規治療法確立に貢献しています。当科は、多くのがん関連遺伝子異常を網羅的に調べることでそれぞれの患者さんに応じた個別化医療（ゲノム医療と言います。）を進める全国プロジェクトの実施施設であり、通常診療では検索することのできない遺伝子異常を調べることで、個々のがん患者さんにより適した薬物療法を届ける努力をしています。基礎研究では、4期肺がんの長期生存に結びつく全ゲノムレベルの遺伝子解析研究が進行中であり、肺がん治療成績向上に結びつく成果を目指しています。

自己免疫性肺胞蛋白症は、GM-CSFに対する自己抗体が産生されて発症する希少肺疾患です。日本人研究者が自己抗体を発見したため、早期に厚生労働省の研究班が組織されて症例の登録と集積が進み、世界的に見ても、日本が基礎及び臨床研究をリードしています。当科は、早くから研究班の一員として参画し、主に自己抗体の臨床的意義や遺伝素因研究を担当しています。また、GM-CSF吸入治療の医師主導治験及び国際共同治験に参加し、多数例の登録実績を誇ります。更にこれまで地域の多数の病院から患者さんの紹介を受け、単一施設として50を超える症例の診療を行っている施設は、世界的に極めて稀です。

【講座からの一言】

呼吸器・アレルギー内科は、昨年からの人員の充足を図ることができ、より診療と教育を充実させることができる体制になりました。今後は、更に若い同窓卒業生の力を得て、臨床研究の展開を図ろうと考えております。



カンファレンス後全員集合



学生さんと肺胞蛋白症の全肺洗浄光景

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

「研究業績データベース運用内規」の裁定

平成30年7月1日付けで「愛知医科大学研究業績データベース運用内規」が総合学術情報センター長裁定され、データベースの利用及び管理に関する事項が定められました。

看護学部教務委員会規程の一部改正

愛知医科大学看護学部教務委員会規程の一部が改正され、委員構成が改められました。

施行日は平成30年7月3日

医学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科履修規程の一部が改正され、新たな授業科目として「リハビリテーション医学」及び「緩和・支持医療学」が設置されました。

施行日は平成30年7月1日

病院部長会規程の一部改正

医療法及び医療法施行規則の改正に伴い、愛知医科大学病院部長会規程の一部が改正され、病院部長会の審議事項の追加、外部有識者からの意見聴取及び審議概要の病院職員への周知に関する事項が定められました。

施行日は平成30年7月1日

医療安全監査委員会規程の制定等

医療法及び医療法施行規則の改正に伴い、医療安全監査委員会の設置者を病院長から理事長へ変更し、委員会の設置・運営に関する事項を定めるため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成30年6月26日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院医療安全監査委員会規程

【廃止】

- ・愛知医科大学病院医療安全外部監査委員会規程

臨床研究審査委員会規程の制定等

愛知医科大学における特定臨床研究の審査の実施のため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成30年5月18日

【新規制定】

- ・臨床研究法に定める権限等の委任について
- ・愛知医科大学病院臨床研究審査委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学における人を対象とする医学系研究等に関する倫理規程

ボランティア活動管理規程の制定等

愛知医科大学病院における病院ボランティア活動の管理、病院ボランティア支援会議の業務及び病院ボランティア活動の表彰に関する事項を定めるため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成30年6月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院ボランティア活動管理規程
- ・愛知医科大学病院ボランティア支援会議運営要綱
- ・愛知医科大学病院ボランティア活動表彰要綱

早期離床・リハビリテーションチーム規程の制定

愛知医科大学病院早期離床・リハビリテーションチーム規程が制定され、集中治療を必要とする患者の運動機能等の維持、改善及び再獲得を早期から支援するための体制が整備されました。

施行日は平成30年7月1日

特殊撮影室運営要綱の一部改正

愛知医科大学病院特殊撮影室運営要綱の一部が改正され、「特殊撮影室」の名称が「血管内治療センター」に改められ、運営委員会の構成員が改められました。

施行日は平成30年6月1日

「人間ドック利用者に対する助成金制度について」の一部改正

平成30年6月1日付けで「人間ドック利用者に対する助成金制度について」（理事長裁定）の一部が改正され、私学事業団の人間ドック利用費補助が隔年になることにかかわらず、本学においては従来どおり毎年の補助を継続するための整備がされました。

なお、この裁定は平成31年4月1日以降の助成金申請から適用されます。

事務組織規程の一部改正等

臨床研究法に基づく臨床研究に関する事務の所掌を定めるとともに、病院事務部の事務分掌等を現状に即したものに改めるため、次の関係規則が整備されました。

施行日は、「事務組織規程」及び「病院事務部事務分掌について」は平成30年6月1日、「事務組織の所掌事務細目について」は平成30年7月11日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学事務組織規程
- ・事務組織の所掌事務細目について
- ・病院事務部事務分掌について